

往電第七六号ニ関シ

在当地總司令孫伝芳ハ吳佩孚ノ命ニ依リ十一月二十四日附公文ヲ以テ首席領事ニ対シ回答アリ要領左ノ通（回答全文写郵送ス）

一、當地駐屯軍ヲ最小限度ノ兵数（約一個小隊）トスル趣旨ハ同感ナルモ土匪襲来ノ虞アリ殊ニ四川ニ対シ尚戦争状態ニ在ル現状ニ於テハ遽ニ実行ヲ期シ難シ尤モ現在宜昌駐屯軍ハ吳ノ信頼スル四十八混成旅ノ外各留守隊ノミナルガ此等部隊ニ対シテハ此際迅速ニ當地ヲ引揚ゲ夫々

所属本部ニ復帰スベキ旨命令シタリ
二、吳ノ軍隊ハ今後宜昌ノ秩序維持ニ対シ全責任ヲ負フベク孫總司令ハ最善ヲ尽シテ当地内外人ノ保護ニ任ジ当地ノ安全ヲ保障スベシ

三、當地通過ノ軍隊ヲ宜昌市街側ニ上陸セシメズトノ要求ハ今後共軍事行動上必要トスル場合アルベキニ付予メ承認シ難シ
北京ヘ転電シ漢口沙市及上海ヘ郵送セリ

事項一 間島撤兵ニ関スル件

（出兵ニ至レル事情及経緯ヲ含ム）

四一三 一月八日

（埴原外務次官ヨリ
王中國公使館參事官宛）

間島地方ヨリ日本軍隊撤退ニ關スル件

附屬書

一月六日附小幡公使ヨリ顏外交總長宛公文写

右同件

大正九年十月四日内田外務大臣発在中国小幡

公使宛電報第五六一號

馬賊ノ輝春襲撃ニ關シ善後措置等追テ中国政

府ニ要求スベキモ不取敢秩序回復維持方ニ付

厳重申入ラル様訓令ノ件

大正九年十月六日斎藤朝鮮總督發内田外務大

臣宛電報至急親展

竜井村等ニ出兵詮議方要請ノ件

大正九年十月六日附在中国小幡公使ヨリ内田

外務大臣宛公第三一八號

輝春事件ニ關シ外交部へ申入ノ件

大正九年十月七日内田外務大臣發在奉天赤塚

總領事宛電報第一六二號

竜井村ニ日本軍派遣ノ件

大正九年十月七日閣議決定（一）（二）

一 間島撤兵ニ關スル件 四一三

五二一

間島方面ニ日本軍隊派遣ニ關スル顏外交總長

大正九年十月七日閣議決定（一）（二）

竜井村ニ日本軍派遣ノ件

大正九年十月七日閣議決定（一）（二）

五二一

一一 間島撤兵ニ関スル件 四一三

五二二

宛公文及半公信写送附ノ件

- 一二 大正九年十月三十日内田外務大臣発在奉天赤塚締領事宛電報第一九五号

間島地方ノ日中協同討伐方式ニ付埠總領事代理ヨリノ問合ニ関スル件

- 一三 大正九年十一月二日閣議決定

間島方面ニ出兵セル帝國軍隊撤退ニ関スル件

- 一四 大正九年十一月三十日閣議決定

撫春事件善後措置ニ関スル件

- 一五 大正九年十二月一日水町大佐発山梨陸軍次官宛電報水電第一二号

間島問題ニ関スル我方ノ態度ヲ説明シ間島在住外人宣教師ノ協力ヲ求ムル覚書ヲ各宣教師ニ交付ノ件

- 一六 大正九年十二月四日内田外務大臣在本邦英國大使会談

水町大佐ガ在間島外國宣教師ニ交付シタル「ステートメント」ニ関スル件

- 一七 大正九年十二月八日在中国小幡公使発内田外務大臣宛電報第一三〇三号

撫春事件善後措置ニ関スル十一月三十日ノ閣議決定ニ対シ意見具申ノ件

- 一八 大正九年十二月十日在中国小幡公使発内田外務大臣宛電報第一三〇九号

在本邦支那公使館

埴原次官

- 王 参事官宛
拝啓陳者旧曆廿八日御来示相成候間島地方ニ於ケル日本軍隊撤退ノ件ニ關シテハ今般別紙写ノ通り本月六日付公文ヲ以テ小幡公使ヨリ顏外交總長宛回答致シタル筈ニ有之候間右ニ御了承相成度此段得貴意候 敬具

(附屬書)

一月六日在中国小幡公使ヨリ顏外交總長宛公文写

以書翰致啓上候陳者撫春事件ニ關連シ派遣セル帝國軍隊撤退ノ儀ニ關シ客年十二月十四日附並ニ同二十七日附貴照會ヲ以テ御申越ノ趣敬承右ハ何レモ早速帝國政府ヘ転達ニ及ヒ置候處貴國政府カ撫春間島地方ニ於ケル秩序維持外人保護ノ為メ軍隊ノ増派ヲ着々実行セラレツタル旨通報ニ接シタルハ帝國政府ノ満足スル処ニシテ帝國政府ニ於テモ貴國軍隊ノ配備ニ順応シテ曩ニ声明シタル通り現ニ逐次撤兵ヲ実行シツツアリ而シテ帝國領事館及分館所在地ニ於ケル帝国軍隊モ該地ニ配置セラレタル貴國軍隊カ克ク現実ニ秩序ヲ維持シ保護警備ノ上ニ何等不安ナキコト確認セラルルニ至ラハ直ニ全部撤退スヘキコト勿論ナル旨回電ニ接シ候ニ付右茲ニ及転達候間御了承相成度此段回答得貴意候

(附 記一)
大正九年十月四日内田外務大臣ヨリ在中国小幡公使宛電報第五六一号
馬賊ノ撫春襲撃ニ關シ善後措置等追テ中国政府ニ要求スペキモ不取敢秩序回復維持方ニ付嚴重申入レラルル様訓令ノ件
第五六一号
在撫春秋洲副領事ヨリ十月二日朝支那人不逞鮮人（露人ヲモ含ム）四百名ヨリ成ル馬賊襲來領事館全焼其ノ他ノ被害ハ尙ホ不明ナルモ判明セル分即死七名重傷危篤者十名以上ニ達シ秩序全ク紊乱在留民ノ困厄名状スヘカラサルニ付不得已在慶源我守備隊ノ一箇中隊出兵方ヲ要求セル旨電報ニ接セリ仍テ此ノ際此上共応急措置ニ關シ秋洲ヨリ何等要求アリタル節ハ出来得ル限り便宜供与方朝鮮總督ヘ依頼シ置キタリ就テハ本件善後措置等ニ關シテハ該事変ノ実情被害ノ詳細ヲモ查明シタル上間島地方ニ於ケル不逞团ノ暴動ヲ根本的ニ阻止スル方法ニ付追テ支那政府ニ要求スル筈ナルモ不敢前記ノ事實ヲ支那当局ニ伝致セラレ追而何分ノ儀申入ルヘキモ差当リ秩序ノ回復維持ノ為メ至急適切有効ナル手段ヲ講スル様嚴重申入レラレタシ

水町大佐ノ間島外人宣教師ニ交付セル覚書ニ
関連シ同大佐一行ノ組織及派遣目的等ニ付回電並

同大佐ノ声明ニ付在本邦英國大使ニ与ヘタル
説明等通報ノ件

一二 大正九年十二月十七日在中国小幡公使發内田外務大臣宛電報第一三三八号

間島撤兵早急实行方電稟並撤兵時日回電方稟請ノ件

一〇 大正九年十二月十八日内田外務大臣發在中国小幡公使宛電報第七二六号

撫春事件善後措置ニ關スル閣議決定ニ對シ提

二一 大正九年十二月二十八日在中國小幡公使發内田外務大臣宛電報第一三七〇号

撫春事件善後措置ニ關スル閣シ回訓ノ件

二二 大正九年十二月二十九日附在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛機密第五〇九号

間島撤兵ニ關スル外交總長來翰写送附ノ件

二三 大正九年十二月二十九日附在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛電報第一三七〇号

間島撤兵ノ當面實行困難ナル事由及撤兵完了ノ大体ノ時期開示方稟請ノ件

二四 大正九年十二月二十九日附在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛電報第一三七一号

間島撤兵ニ關スル外交總長來翰写送附ノ件

閣議案

(外務省)

帝国政府ニ於テハ不逞鮮人ノ間島方面ニ於ケル近來ノ活動ニ顧ミ北京奉天及吉林ニ於テ支那側ト交渉ノ上日支共同討伐ヲ実行セムトシタルモ支那側ハ種々ノ口実ヲ設ケテ我方ノ主張ニ応セス漸ク支那側ノミノ討伐隊ヲ組織シ最近一ヶ月以来之カ討伐実行ニ着手シタルモ殆ント何等ノ実績ヲ挙ケ得サルノミナラス却テ不逞鮮人側ト妥協シ単ニ形式的討伐ヲ行ヒタルニ過キス為之不逞鮮人ノ活動ハ近時益々兇暴ノ度ヲ加ヘ来リ現ニ最近琿春ニ於テ惹起シタル凶変ハ全ク彼等不逞鮮人等カ支那馬賊及過激派露人ト提携シテ遂行シタルモノニ係リ加之我間島總領事ノ報告ニ依レハ右ノ如キ陥惡ナル形勢ハ單リ琿春方面ニ止マラス我總領事館、分館所在地タル竜井村、頭道溝、局子街及百草溝方面ニ於テモ数百ノ馬賊團來襲ノ情報類々トシテ至リ同方面ノミニテモ不逞鮮人団ノ数、千名以上ニ達シ之亦襲撃ノ暴挙ニ出テムトル形勢ナルヲ以テ最早我自衛上領事館及居留民保護警備ノ為メ從來臨時派遣シ置キタル少數ノ警察隊ヲ以テシテハ到底其目的ヲ達スルコト不可能ニ付旁々政府トシテハ此際此不祥ノ出来事ヲ機会トシテ間島方面ニ於ケル警備ヲ完

キニ至ラバ直ニ撤兵スルコト且ツ本項ノ趣旨ヲ出兵ト同時ニ宣言スルコト
右至急閣議決定ヲ請フ

註 十月七日内閣ニ提出ノ閣議案二件ハ即日決定セラレタリ

(一) 局子街方面出兵ニ關スル件

閣議案

(陸軍省)

間島方面馬賊及不逞鮮人ノ暴挙ニ対シ帝国臣民及其ノ利益ノ保護、警備並不逞鮮人討伐ニ必要ナル兵數ヲ急派スルコトニ閣議決定相成候処琿春ニハ既ニ帝國領事ノ請求ニヨリ歩兵二中隊機関銃一小隊ヲ派遣シアリ同隊ハ三日夜馬賊立不逞鮮人等ト交戦シ同夜支那官兵モ亦反乱ヲ起シ脱走シテ馬賊團ニ投シタルモノノ如ク又局子街方面ニ在ル馬賊不逞鮮人等ハ平時ノ調査ニ徴スルモ二千七百名以上ニ及ヒ該地方面ノ帝國領事モ亦形勢急ニシテ出兵ノ一刻モ速カナルヲ切望シアル情況ナルヲ以テ此ノ閣議決定ニ基ク出兵ハ即時之ヲ決行シ機ヲ失セサル様取計フ事ト致度

間島方面ニ派遣スヘキ兵力ハ不逞鮮人馬賊等ノ兵力特ニ其ノ分散地域適確ナラサルト交通線不備ナル為運輸通信ニ妨

成シ兼テ不逞鮮人ノ禍根ヲ一掃スル為メ必要數ノ軍隊ヲ派遣シ以テ此不安險惡ナル形勢ニ処スルノ外ナシ就テハ

(一) 不取敢竜井村、頭道溝、局子街及百草溝等ノ帝國臣民及其利益保護警備ノ為メ軍隊派遣方ニ付直ニ支那側特ニ東三省巡閱使張作霖ニ對シ右軍隊派遣ノ已ムヲ得サル理由ヲ説明シ支那側ニ於テ即時承認ヲ与ヘンコトヲ求ムルコト

若シ支那側ニ於テ容易ニ承諾ヲ与ヘザル場合ニハ不得巳自衛的措置トシテ出兵スベキ旨通告スルコト

(二) 同時ニ支那側ニ対シ從来ノ不逞鮮人討伐ノ不徹底ヲ責メ此際日支兩國軍隊共同討伐ノ實行ヲ承諾セシムルコト

若シ支那側ニ於テ之ヲ聽容レザルトキハ日本側ニ於テ自衛上已ムヲ得ズ单独ニ不逞鮮人討伐ヲ實行スルコト

(三) 政府ハ前記ノ帝國臣民及其利益ノ保護警備並不逞鮮人討伐(支那側ノ態度如何ニ依リ日支共同又ハ単独ニテ実行スベキモノトス)ニ必要ナル兵數ヲ急派スルコトトシ至急準備ヲ遂クルコト

四本件出兵ハ要スルニ間島ニ於ケル現下危急ノ形勢ニ応スル一時的措置ナルヲ以テ同地方不逞鮮人ニ關スル危虞ナ

(附 記六)

〔欄外註記〕
「右部隊國境通過後國境ノ守備ニ任スヘキ歩兵二大隊モ同時ニ國境外ニ出動セシム」
「浦潮ヨリ帰還スヘキ第十四師団ノ部隊中歩兵一旅団ヲ基幹トセルモノノ間島ヲ經テ行軍帰還セシム」

大正九年十月七日内田外務大臣ヨリ在奉天赤塚総領事宛電報第
一六三号

間島出兵ノ閣議決定ニ閔シ張巡閱使ニ対スル交渉振訓令ノ件

第一六三号（至急）

間島方面ニ於ケル不逞鮮人力馬賊ト連絡シテ活動シ形勢険
悪ヲ來シツツアル事態ハ琿春間島ヨリ累次ノ電報ニヨリ御
承知ノ通リナルトコロ帝国政府ニ於テハ最早支那ノ優柔不
断ナル態度ニ信頼スルヲ得ズ琿春ニ於ケル不幸ナル凶変ヲ
機会トシ間島方面ニ於ケル不逞鮮人ノ禍根ヲ剿滅スルノ方
針往電合第二一五号ノ通り廟議決定シ不取敢間島總領事館
及各分館ノ危急ヲ救フ為警備駐兵ノ名義ヲ以テ約六大隊ノ
兵ヲ派遣スルコトニ決シタリ然ルニ右廟議決定ニ先チ間島
方面ノ形勢切迫セシヲ以テ在間島總領事代理ノ請求ニ基キ
朝鮮軍ヨリ既ニ六日四箇中隊ヲ竜井村ニ急派シタリ就テハ
貴官ハ至急張巡閱使ニ會見シ(イ)孟司令ノ統率セル支那側討
伐隊ノ不徹底ナル行動ノ結果間島方面ノ形勢険惡ナルコト
(乙)琿春凶変ニヨリ不逞鮮人ト馬賊トノ連絡、支那兵ノ暴徒
加担、露國過激派ノ參加ニヨリ間島方面形勢ノ一変セルコ
ト(ハ)所謂馬賊團、不逞鮮人團ノ襲撃力專ラ帝国領事館並居

タキニ付即時承認ヲ与ヘラレタク若シ該承認ヲ与ヘラレ
ザルニ於テハ自衛上止ムヲ得ザルニ付承認ヲ俟タズシテ
増派スヘキニ付予メ誤解ナキ様了解ヲ乞フ尤モ右派兵ハ
全然警備駐兵ノ為不得止ル自衛上ノ措置ニ止マルヲ以テ
何等支那領土占領等支那ノ主權ヲ侵害スル意図ニ出デタ
ルニ非ザルコトヲ併セテ茲ニ声明ス

三、畢竟間島ニ於ケル最近ノ險惡ナル形勢ハ帝国政府ガ曩
ニ貴巡閱使ノ快諾ヲ得奉天省方面ノ朝鮮接境地帯ニ於テ
不逞鮮人ノ搜索隊ヲ組織シ日支共同行為ニヨリ充分成績
ヲ挙ケタルモ然モ不逞鮮人ノ最モ跳梁ヲ逞ウスル間島方
面ニ就テモ當時同様ノ計画ヲ以テ吉林支那官憲ニ徹底的
共同討伐ノ案ヲ具シ再三協議シタルニ不拘該官憲ニ於テ
僅カニ名義上ノ増兵ヲナシ飽迄日本側ノ共同行為ヲ拒絶
シ却テ不逞鮮人側ト私カニ相通シ之ヲ追ヒ散ラスニ止マ
リ結果何等ノ成績ヲ挙ゲザルノミナラズ不逞鮮人輩ヲシ
テ支那兵ノ為スナキヲ悔ラシメ惹テ馬賊團ト連絡シ如上
ノ如キ險惡ナル形勢残酷ナル虐殺ヲ現出スルニ至レリ從
テ帝国政府ハ此際更ニ間島方面ニ於ケル不逞鮮人ノ根本
的剿滅ニ付此ノ際断然日支両国ノ兵力ヲ以テスル共同討

留民ヲ目標トセルコト(乙)琿春事變ニ伴ヒ馬賊團不逞鮮人團
ノ頭道溝局子街方面ニ於ケル最近險惡ノ形勢等ヲ詳細説明
ノ上左ノ通り申入レ結果電報アリタシ

一、間島方面ニ於ケル支那軍隊ノ優柔不斷ニシテ不逞鮮人
團並ニ馬賊團ニ対スル取締警備ノ任ニ堪ヘザル結果琿春
ニ於ケル不幸ナル凶変ヲ惹起シタルニ付テハ追テ其損害
ヲ調査シタル上何分ノ儀申進スペキモ囊ニ在琿春領事カ
該地方支那官憲ニ対シ同方面ノ危險ヲ予告セルニ対シ同
官憲ハ右ニ對シ其秩序維持ノ責ニ任スペキ旨答ヘタルニ
不拘此ノ災禍ヲ起シ而モ支那軍隊ノ一部カ右暴徒ニ加担
シタル情報ヲ接到セル今日支那側ニ於テ帝国官民ノ死傷
並財産ノ損害賠償並責任官憲ノ謝罪ニ閔スル根本主義ヲ
承認スルコトヲ要求ス

二、前項ノ事状ニ徴スルモ在間島支那地方官憲ハ到底秩序
維持ノ能力ナク而シテ局子街頭道溝百草溝方面ニ於ケル
險惡ナル形勢益々切迫セルヲ以テ琿春派兵ト同様危急ヲ
救フ為既ニ不取敢小部隊竜井村ニ急行シタルガ尚帝国政
府ハ引続キ領事館及居留民保護並警備ノ為更ニ必要ナル
兵ヲ急速派遣シ事態鎮定ノ見込確実トナル迄駐兵セシメ
兵ヲ急速派遣シ事態鎮定ノ見込確実トナル迄駐兵セシメ

伐ヲ誠実ニ實行セラレムコトヲ切ニ希望ス若シ右共同討
伐ニ付同意セラレザルニ於テハ不得止帝国政府ハ自國ノ
安全ヲ防護シ接境地帯ヨリスル脅威ヲ根絶スル為メ单独
ニ之ヲ実行セザルヲ得ザルニ至ルベシ之自衛上不得止ノ
措置ナルヲ以テ此点モ又予メ了解ヲ得タシ
以上ノ要求ハ本來支那中央政府ニ対シテ申入ルベキ事項ナ
ルモ東三省ニ於テ動カスベカラザル権威ヲ有セラレ又中央
政府ニ対シテモ重大ナル威望ヲ有セラル張巡閱使ニ先ツ
第一ニ協議スル次第ナリ殊ニ間島方面ニ於ケル不逞鮮人ノ
行動ノ險惡ナル形勢ニ付最モ良ク了悉セラレ且ツ本件ニ閔
シ從来帝国ニ対シ同情セラル同巡閱使ニ特ニ実情ヲ披瀝
シテ其ノ了解ヲ求メントスル次第ナル旨張ニ會見ノ際特ニ
申添ヘラレタシ
北京吉林へ転電アレ

（附 記七）

大正九年十月九日内田外務大臣ヨリ在奉天赤塚総領事宛電報第
一六五号

浦潮ヨリ帰還ノ軍隊中一旅團間島地方行軍ニ閔シ張巡閱使ノ諒
解取付方訓令ノ件

附記 十月九日田中陸軍大臣ヨリ大庭朝鮮軍司令官ヘ指示

事項

第一六五号

往電第一六三号ニ閑シ間島派遣ノ兵力ハ既ニ琿春竜井村ニ駐派セル兵ヲ合セテ總計六箇大隊ニシテ專ラ閣議決定ノ行動ニ任スル筈ナルガ尙別ニ浦潮ヨリ帰還スペキ第十四師団ノ部隊中歩兵一旅團ヲ浦潮ヨリ帰還ノ途次間島地方ヲ行軍セシムル事ニ決シ同軍隊モ亦不逞鮮人討伐ヲ援助スル筈ニテ先発隊ハ多分本月十五、六日頃浦潮出發「ボセット」湾上陸同月二十日頃琿春着ノ予定ナリ就テハ右御含ノ上至急往電第一六三号ノ趣旨ニテ先方ニ申入レ其諒解ヲ求メラレタシ

右為参考北京ニ転電アレ

(附記)

十月九日田中陸軍大臣ヨリ大庭朝鮮軍司令官へ指示事項

一、間島方面ノ出兵ニ閑シ外務大臣ハ奉天赤塚總領事ヲシテ張作霖ニ対シ左ノ主旨ヲ以テ交渉スヘキ旨訓令セリ

(イ)琿春事件ノ損害賠償、責任官憲ノ謝罪ニ閑スル根本主義ヲ承認スルコトヲ要求ス

(ロ)帝国政府ハ不取敢更ニ一部隊ヲ竜井村方面ニ急行セシ

受クヘキ行動ハ嚴ニ之ヲ慎シマシメ家屋、軍需品ノ徵用購買等ニ閑シテモ特ニ支那官民ノ権利ヲ尊重シ永遠ニ彼等ヲシテ我ニ信賴セシムル如ク指導セラレタシ
四、不逞鮮人、馬賊、露人過激派及之ニ加担スル匪徒ハ單ニ尋常ノ不逞團ト見ルコト能ハス彼等ハ間島ノ民心ヲ過激派化シ之ヲ利用シテ朝鮮内地ノ人心ヲ動搖セシメ以テ朝鮮獨立ノ目的ヲ達セントスルモノニシテ実ニ帝国特ニ朝鮮ノ統治並治安維持上一日モ看過スル能ハサル所ニシテ之亦今回ノ出兵ヲ見タル所以ナリトス依テ貴官ハ第三項ニ示ス如ク良民ニ対シテハ愛撫ニ勉ムルト同時ニ之ニ反スルモノニ対シテハ徹底的ノ打擊ヲ与ヘ帝国ノ受クヘキ禍根ヲ根絶スルコトニ努力セラレ度

五、支那官兵ノ匪徒ニ混シテ騷擾スルコトハ外交上看過スヘカラサル事ニシテ此ノ件ハ常ニ我ニ対シ外交上有利ノ情況ヲ与フルモノナルヲ以テ此等事実ヲ發見セハ直ニ之カ実証ヲ確保シ為シ得レハ事每ニ支那官憲ヲシテ之ヲ承認セシメ置ク手段ヲ講スルコト必要ナリ

六、間島ニ於ケル連絡並意志疏通ヲ図ル事ハ最モ必要ナリ之カ為ニ於ケル連絡並意志疏通ヲ図ル事ハ最モ必要ナリ之カ為ニ

メタルモ尚将来ニ於テ必要ニ依リテハ兵力ヲ増加シ且事態鎮定ノ見込確実トナル迄駐兵セシムヘキニ付此等

ノ諸件ニ対シ即時承認ヲ与ヘラレ度若シ承認ヲ與ヘラレサルニ於テハ自衛上止ムヲ得サルニ付承認ヲ俟タスシテ更ニ増兵シ又之ヲ駐兵セシムヘキニ付予メ了解ヲ乞フ但シ此ノ派兵ハ支那領土占領等支那ノ主權ヲ侵害スル意圖ニアラサルヲ声明ス

(ハ)此ノ際日支兩國兵力ヲ以テスル共同討伐ヲ誠実ニ実行スルコトヲ希望ス若シ右討伐不同意ナルニ於テハ帝国ハ已ムヲ得ス单独ニ之ヲ実行ス是レ自衛上已ムヲ得サルニ付予メ了解ヲ得タン

二、外交上ノ関係第一項ノ如キヲ以テ貴官ハ特ニ今回ノ出

兵ノ動機ニ鑑ミ先ツ現下ニ於ケル情況ハ共同若ハ単独討伐ニ移ル前提トシテ居留民保護ノ為行動シアルモノニシテ純然タル討伐行動ニ移ルノ機ハ第一項ノ交渉ノ結果以後ナルモ此ノ間ニ於テモ我行動ニ対シ敵対行動又ハ妨害ヲ与フルモノアルトキハ之ヲ討伐スルコトハ勿論ナリ

三、間島ハ元ヨリ支那領土ニシテ多少ノ外国人ノ居住スヘキヲ以テ行動ニ際シ支那官民及外国人ノ悪感若ハ誤解ヲ

必要ナル人員ハ適宜之ヲ増加配属スヘキモ取敢ヘスノ処置トシテ此ノ点ニ就テ適宜ノ処置ヲ取ルコトヲ考慮セラレ度

七、間島方面ノ騷擾ノ余波ハ鴨綠江方面並朝鮮内地ニ波及スヘキコトアルヲ顧慮シ相当ノ考慮ヲ払ハルコト必要ナリトス

(附記八)

大正九年十月十一日在奉天赤塚總領事ヨリ内田外務大臣宛電報

第三四九号

間島出兵ノ閣議決定ニ閑シ張巡閱使ニ申入ニ対スル張ノ回答報告ノ件

第三四九号(至急)

貴電第一六三号ニ閑シ

本月十一日病氣中ノ張巡閱使ニ面会シ御訓令ノ趣ヲ直接交渉シタルニ対シ張ノ回答左ノ通り

(イ)日本カ現ニ竜井村、百草溝、局子街等ノ方面ニ出兵シタル今日自分トシテハ之ニ反対スル訳ニハ行カザルモ然レバトテ全然之ヲ承認スル訳ニモ行カズ此点御諒察ヲ請フ

(ロ)共同討伐ハ主義トシテ同意ナリ其ノ共同動作ノ方法ハ日本陸軍官憲ト支那側軍隊總指揮官タル鮑吉林督軍トノ間ニ

直接協議スルコト為シタシ但シ之カ実行ニハ幾多ノ困難アリ殊ニ日支両國兵ノ誤解ヨリ生スル衝突ヲ予防スルコトハ最モ必要ナルヲ以テ今夜軍事會議ヲ開キタル上町野軍事顧問及丁鑑修ヲ吉林ニ急派シテ鮑將軍ト打合セヲ為ス筈ナリ

(三) 琦春事件ノ責任問題ニ関シテハ本件カ支那領土内ニテ發生セル關係上支那側ニ於テ責任ヲ負担スヘキハ當然ト思考スルモ當ノ責任者ハ中央政府及吉林省官憲ナルヲ以テ自分トシテ之ヲ言明スルヲ不便トス且又日本側報告ノ如ク琦春事件ニ支那兵士ノ加ハリ居レル事實ハ未タ報告ニ接シ居ラズ從テ本件内情ヲ調査シタル上本問題ヲ議スルモ尚遲カラズト認ム

公使吉林間島總督閏東厅長官へ電報セリ
(附記九)

大正九年十月十二日閔議決定

奉天省方面ニ於ケル日中共同討伐ニ閔スル件

閣議案

過般來支那側ノ行ヒタル間島方面ノ不逞鮮人ノ討伐不徹底

ナリシ為不逞鮮人等ハ漸次奉天省方面ニ移動シツツアリテ既ニ間島地方ヨリ精銳ナル武器ヲ携帶セル多數ノ不逞鮮人

ハ柳河、通化、緝安、桓仁諸県ニ入込ミ彼等ノ企圖ニ反対スル良民ヲ殺戮シ事態益々険惡ノ徵アルハ別紙(註)在通化領事館分館ヨリ報告ノ次第モ有之尚今回間島地方一帯ノ地域ヲ徹底的ニ討伐致スニ就テハ本掃蕩ニ伴ヒ不逞鮮人ノ鴨綠江對岸ニ遁避スル者益々多ク該方面亦不穩ノ度ヲ增加スヘキハ之ヲ予想シ得ヘシ依テ此ノ際支那側ノ諒解ヲ得テ日支共同シテ通化方面鴨綠江對岸方面ニモ一部隊ヲ派遣シ此ノ不穩ノ情況ニ備フルト同時ニ間島方面ノ討伐ノ結果ヲ完全ナラシムルコトニ致度

註 別紙記録ニ存セズ

(附記一〇)

大正九年十月十二日附在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛機密第四〇一号

璦春及間島方面ニ日本軍隊派遣ニ閔スル外交總長來翰写送付ノ件

附屬書 十月十一日附顏外交總長ヨリ小幡公使宛書翰写

同方面ニ日本軍隊增遣中止方並鎮靜次第全部撤退方申越ノ件

機密第四〇一号

大正九年十月十二日

(十月十八日接受)

隊前往保護此乃暫時之事毫無占地之意一俟地方平靖即当全撤此係迫不得已之情請予体諒等語查此案發生本國政府甚為

注重即經電飭該省督軍迅速派兵剿匪並保護中外人民至貴國派兵前往深慮該處人民因此恐慌國內輿情易生誤会有傷

兩國感情是以甚盼不作此等非常之舉惟為顧念兩國邦交重視此案起見本總長不欲遽加抗議當經再三聲明對於派遣四大隊

不表贊同並請俟中國軍隊開至該處力足維持地方秩序時即貴國已到之兵亦即全撤

貴公使對於此節極表同意並面允負責現在已奉

大總統明令責成該省軍政長官督飭地方軍警馳往切寒剿弁並飭加意保護外僑又拵該省督軍電稱已派重兵前往跟蹤追剿不日即可開到地方得此兵力已足維持秩序是

貴國更無派遣大隊之必要應請

貴公使電達

貴政府將派遣軍隊之舉即行作罷至拵報

貴公使所稱一俟地方平靖即行全撤以符前言實幼睦誼相應照

會

照会事璦春一案本月九日經
外交總長頃
照会字第四五号

貴公使來署面稱接政府訓令該處日僑送電請求保護

貴政府決定派遣陸軍四中隊赴竜井村又因地方広大擬派四大

右 照 会

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民国九年十月十一日

(右和訳文) (註 外務本省係官ニ依ル仮訳文ナリ)

照会字第四五号

書翰ヲ以テ啓上致候陳者琿春事件ニ付本月九日貴公使來署面陳セラル所ニ拠レハ政府ノ訓令ニ按スルニ該地居留日本人ヨリ屢電報ヲ以テ保護ヲ請求セルニ因リ貴国政府ハ陸軍四中隊ヲ竜井村ニ派遣スルニ決定シ又地方広大ナルニヨリ四大隊ヲ派遣シテ保護スル筈ナリ此レ乃チ暫時ノ事ニシテ毫モ土地占領ノ意思ナシ其地方ノ鎮静次第直チニ全部撤退スヘシ右ハ事情切迫シテ已ムヲ得サル場合ナレハ諒察アランコトヲ請フ云々按スルニ此事件発生ニ付テハ本国政府ハ甚タ之ヲ重要視シ直チニ該省督軍ニ電命シテ迅速ニ兵ヲ派シ土匪ヲ討伐セシメ並ニ内外人民ヲ保護セシメタリ貴國ノ軍隊派遣ニ就テハ該地人民此カ為メニ恐慌シ国内ノ輿論ハ誤解ヲ生シ易ク両國ノ感情ヲ傷ケンコトヲ深ク慮ル是ヲ

以テ此等ノ非常行動ナカラソコトヲ切望ス但シ両國ノ邦交ヲ顧念シ此事件ヲ重視スルカ為メニ本總長ハ遽ニ抗議スル

コトヲ望マス依テ四大隊派遣ニ對シテハ賛成ヲ表セサルコトヲ再三声明シ置ケリ並ニ支那軍隊カ該地ニ到着シテ地方ノ秩序ヲ維持スルニ足ルノ時ヲ俟テ貴國ノ派遣軍ハ速ニ全部撤退セラレンコトヲ請ヒシニ貴公使ハ此点ニ對シテハ極メテ同意ヲ表セラレ並ニ責任ヲ負フコトヲ面諾セラレタリ現在ニ大總統ノ命令ヲ奉スルニ該省ノ軍政長官ニ向テ地方ノ軍警ヲ急派シテ確實ニ討伐処分セシムルコトヲ嚴命シ並ニ意ヲ加ヘテ外國居留民ヲ保護スルコトヲ命セラレタリ又該省督軍ノ電報ニ拠ルニ已ニ大兵ヲ派遣シテ追跡討伐スルコトシタレハ日ナラスシテ該地ニ到着スヘク此兵力アレハ已ニ秩序ヲ維持スルニ充分ナリ則チ貴國ハ更ニ大隊ヲ派遣スルノ必要ナシ依テ貴公使ヨリ貴国政府ニ電請シテ軍隊派遣ノ行動ヲ直チニ中止セラレタシ報告アリタル貴國派遣軍ノ已ニ到着シタル部分ニ付テハ是非共貴公使ノ云ハル通リ地方ノ鎮静次第直チニ全部撤退セラレ以テ前言ニ符セラレナハ実ニ感佩ノ至リニ堪ヘス此段御照会申進候

敬具

(附 記一)

大正九年十月十三日附在中国小幡公使ヨリ内務大臣宛機密

第四〇七号

間島方面ニ日本軍隊派遣ニ閲スル顏外交總長宛公文及半公信寫

送付ノ件

附屬書一 十月十二日附小幡公使ヨリ顏外交總長宛公文第二

○六号写

右方面ニ日本軍隊派遣ノ目的諒知アリタキ件

二 十月十二日附小幡公使ヨリ顏外交總長宛半公信第

二〇七号写

間島ニ派遣ノ日本軍兵員數ニ閲スル件

機密第四〇七号

(十月十八日接受)

大正九年十月十三日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

件名 琿春及間島方面ニ於ケル日本軍隊派遣
ニ閲スル件

本件ニ閲シ左記書類及送付候也

甲 号 十月十二日附顏外交總長
—— 宛回答公文写

乙 号 — 同日附同總長宛半公信寫 —
關係電報 往電第一〇八八号
本信寫送付先 奉天 吉林 間島
(附屬書一)
甲号
十月十二日在中国小幡公使ヨリ顏外交總長宛公文寫
間島方面ニ日本軍隊派遣ノ目的諒知アリタキ件
第二〇六号

大正九年十月十二日

小幡公使

顏外交總長宛

以書翰致啓上候陳者今般琿春ニ於テ發生シタル重大事件ニ
關シ十月十一日附第四五号照會ヲ以テ御申越ノ趣正ニ致
悉候本件ニ閲シテハ十月九日貴總長トノ會見ニ於テ本使ヨリ詳述シ置キタル通リ今回帝國軍隊ノ間島方面ニ對スル派
遣ハ同地在住帝國臣民ノ保護上絶対已ムヲ得サルニ出テ
ルニ過キス從テ同地方一帶並國境附近ノ地方等ニ於ケル秩
序カ該地方在住ノ帝國臣民及我國境ノ治安ニ對スル脅威ト
其不斷ノ禍根トヲ絶ツニ足ル迄ニ恢復セラルニ至ラハ帝
國軍隊ノ直ニ撤退セラルヘキハ固ヨリ論ナキ所ニ有之候実

一一 間島撤兵ニ関スル件 四一三

五六六

ハ此次第ヲ明ニシ其間何等誤会ナカラソコトヲ期スルカ為

曩ニ親シク閣下ト會見貴國政府ノ諒解ヲ得置キタル次第ニ

有之而シテ右ノ関係ハ全部ノ軍隊ニ就テ云ヘル次第ナルハ

當日貴總長御了知ノ通リニテ何等誤会ナキ筈ニ有之候間右

様御承知相成度尚今回軍隊ノ派遣ハ琿春事件ノ性質並間島

一帶ニ於ケル不穩ノ実況ニ鑑ミ帝国政府ニ於テハ其所期ノ

目的ヲ達セサル限り断シテ之ヲ翻スヲ得サル強固ナル決意

ヲ有スル次第ニ有之候間併セテ御諒知相成度此段照覆得貴

意候 敬具

(附属書二)

乙号

十月十二日在中国小幡公使ヨリ顏外交總長宛半公信写

間島ニ派遣ノ日本軍兵員數ニ關スル件

第二〇七号

拝啓陳者琿春事件ニ関スル十月九日本使ト貴總長トノ面議ニ於テ今回同地方ニ派遣スヘキ帝國軍隊ハ四中隊ノ外ニ約四大隊ナル旨申述ヘタル処其実數ハ四大隊ニ非スシテ六大隊ニ有之右四大隊トセシハ電報暗号上ノ誤ニ依ル次第ニ有之候間右様御承知相成度此段申進候 敬具

大正九年十月十二日

義回電アリタシ

右北京ヘ転電アレ

(附記)

日支協同討伐ニ關スル協定事項

日本側代表佐藤、貴志両少將ト吉林鮑督軍代表町野中佐ト奉天ニ於テ左ノ協定ヲナセリ両者間ノ誤解ヲ生セサラシム

ル為協定セル事項左ノ如シ

一、日本軍隊ト睦誼ヲ敦クスル為左ノ通リ協同討伐ス

二、東寧省ハ東支鐵道以南二十里(支那里)以外ノ地区及

琿春、延吉、汪清、和龍五県ノ全馬賊匪賊討伐ノ事ハ日本軍隊之ニ任ス

但シ寧城ニハ支那軍隊一、二中隊竝巡警ヲ残留シテ秩序

ノ維持ニ任セシム

三、前記五県以外ノ地ニ於ケル匪類ハ支那軍隊ヲ以テ之ヲ討伐ス

互厚意ヲ以テ相対シ誤解ヲ生セサラシム

五、吉林ヨリ特ニ連絡及情報蒐集上ノ必要要員ヲ日本軍司令部ニ派シ又支那側ニテ鮑督軍カ必要アリト認メタル際

ハ此ノ派シ又支那側ニテ鮑督軍カ必要アリト認メタル際

日本帝国特命全權公使 小幡西吉

支那共和国署理外交總長 頗惠慶殿

(附記一二)

大正九年十月三十日内田外務大臣ヨリ在奉天赤塚總領事宛電報

第一九五号

間島地方ノ日中協同討伐方式ニ付堺總領事代理ヨリノ問合ニ関スル件

附記 日中協同討伐ニ關スル協定事項

第一九五号

堺発貴官宛電報第二八九号ニ關シ

西沢書記官カ朝鮮軍司令部ニ於テ入手當方へ送付シ來レル

「日支協同討伐ニ關スル協定事項」ニ依レバ「日本側代表

佐藤、貴志両少將ト吉林鮑督軍代表町野中佐ト奉天ニ於テ

左ノ協定ヲナセリ」ト冒頭ニ記載シ其第二項ニ「……五県

ノ全馬賊匪賊討伐ノ事ハ日本軍隊之ニ任ス但シ寧城ニハ支

那軍隊一、二中隊並巡警ヲ殘留シテ秩序ノ維持ニ任セシム」

ト規定シ又第六項ニハ「日本軍隊ハ短少時日ニ於テ軍事行

動ノ終了ヲ努ムモノトス」トアリ貴電第三六八号ノ内容

ト右二点ニ於テ相違アリト認メラルル處右ハ果シテ鮑督軍

及張巡閱使ノ完全ナル諒解ヲ得タルモノナリヤ否ヤ何分ノ

ハ日本軍ヨリ此委員ヲ派遣スルモノトス

六、日本軍隊ハ短少時日ニ於テ軍事行動ノ終了ヲ努ムモノトス

七、日本軍隊ハ所定区域外ニ出ツルコトヲ得ス即匪徒ヲ追伐スルノ關係ト雖境ヲ越ニヘカラス以テ誤解ヲ免カレ紛擾ヲ生セサラシム

八、日本軍隊ハ其ノ行動区域内ニ於テ正ニ一般民ノ生命財産ヲ尊重シ毫モ傷害又ハ損失セシムルコトヲ得ス以テ両國人ノ感情ヲ傷フコトヲ免カレシム又支那國ノ各種機關トハ全然無關係トシ毫モ強制的行為ニ出ツルコトヲ得ス

追記、海林方面ヨリ日本軍隊行動区域内ニ前進スル日本軍

ハ寧安県ヲ通過ス

(附記一三)

大正九年十一月二日 閣議決定

間島方面ニ出兵セル帝国軍隊撤退ニ關スル件

閣議案

(陸軍省)

琿春事件ニ基間島方面ニ派遣セル帝國軍隊ハ近ク所期ノ目的ヲ達スヘキヲ以テ十月十四日ノ声明ニ基キ左記要領ニ因リ予メ撤退ヲ準備シ且其ノ準備成ルニ於テハ撤退ヲ実行

致度

一、支那側ヲシテ速ニ其ノ軍隊ヲ間島ニ増派セシメ以テ自ラ治安ノ維持ニ任シ得ルノ実力ヲ備ヘシメ且帝国ニ対シ同地方ノ帝国臣民及其ノ利益ノ保護並不逞鮮人等ノ討伐ヲ実行シ以テ累ヲ帝国領土内ノ治安維持ニ及ホササルコトヲ保障セシム

二、琿春竜井村局子街百草溝頭道溝等帝国居留民ノ在住スル地方ニハ帝国臣民保護ノ為特ニ支那軍隊ヲ配置セシム若シ支那側ニ於テ此等ノ地点ニ其ノ軍隊ヲ配置セサルニ於テハ帝国ハ當分ノ内必要ト認ムル地点ニ所要ノ守備兵ヲ残置スルコトヲ支那側ヲシテ承認セシム

三、将来再ヒ今回ノ如キ事変發生シ支那側ニ於テ鎮定スル能ハスシテ帝国臣民ニ危害ヲ与ヘ其ノ利益ニ損害ヲ与ヘ若ハ累ヲ帝国領土内ノ治安維持ニ及ホスニ於テハ帝国ハ自衛上更ニ必要ナル地方ニ出兵シテ臨機ノ処置ヲ執ルヘキ事アルヘキヲ予メ支那側ヲシテ承認セシム

四、支那側ニ於テ右諸件ヲ承認シ相当ノ処置ヲ執リ其ノ実行ヲ観ルニ於テハ帝国軍隊ハ討伐ノ段落ヲ告クルヲ機トシ逐次間島ヨリ撤退ス

シテハ一応事態ノ緩和ヲ見ルニ至ル迄之ニ必要ナル限度ノ守備隊ヲ残駐セシムルコトナリ居レルヲ以テ差当支障ナカルヘシト雖愈々該守備隊ノ撤退スルニ当リ執ルヘキ措置ニ閑シテハ予メ攻研究ヲ要ス右ニ付テハ間島總領事館並局子街頭道溝及琿春各分館ノ警察力ヲシテ不逞團ノ來襲ニ対シ領事館並居留民ノ生命財産ヲ保護シ得ルニ足ルノ実力ヲ備ヘシムル為此際前記各館ノ警察組織ヲ根本的ニ改造スルノ必要アリ此点ニ閑シテハ朝鮮總督府ト充分協議ノ上實際ニ適切ナル計画ヲ立ツルコトト致度シ

(二)事件自体ノ解決案

事件ノ真相ニ閑シテハ猶事態ノ精査ニ俟タサルヘカラサルモノアリト雖支那側ニ対スル要求ハ概不左記各項ニ止ムルコト然ルヘシ

- (1)死傷者ニ対スル弔慰金及慰藉金
- (2)財產上ノ損害賠償
- (3)責任者ノ処罰
 - (1)暴徒ニ参加セル支那官兵ノ極刑
 - (2)右直屬部隊長官ノ嚴刑
 - (3)琿春地方官憲ノ懲罰

(二)延吉道尹ノ懲戒

(三)支那政府ノ陳謝

右等要求ノ交渉ニ閑シテハ素ヨリ在支帝国公使ヲシテ支那政府ト接洽セシムルコト至当ナリト雖之カ迅速円満ナル解決ヲ期スルニ付テハ一面在奉天帝国總領事ヲシテ東三省巡閱使張作霖トノ間ニ了解ヲ遂ケシムルコト或ハ得策ナルヘク旁々本件要求提出ノ時機及方法ニ閑シテハ別ニ考慮ヲクルコトト致度シ

(三)根本的解決案

今次ノ琿春事件ヲ機トシ此ノ際間島問題ニ閑スル根本的解決ニ一步ヲ進メ以テ禍根ノ芟除ヲ期スルコト必要ナリトス即チ

- (1)不逞鮮人討伐ニ閑スル協定ノ訂立
- 此際比較の大規模ノ討伐ヲ行フモ結局不逞鮮人ノ巢窟ヲ掃蕩スルコトヲ得サルヘキニ顧ミ進ムテ将来ニ於ケル共同討伐乃至帝国軍警越境ニ閑スル日支協定ヲ訂立スルコト肝要ナリ而シテ本件ハ此際速ニ之ヲ提議シ我出動部隊殊ニ居留民保護警備ノ為暫時駐留スヘキ軍隊ノ引揚問題ト牽聯セシムルカ如キモ一策ナルヘシ尚本件協定訂結ノ

五、間島方面ノ治安ヲ維持シ帝国臣民ノ生活ヲ安定セシムル為ニハ交通機関ノ整備ヨリ急ナルハナシ因テ此ノ機會ヲ利用シテ速ニ支那側ニ交渉シテ吉会鉄道ノ敷設ヲ促進スルノ方法ヲ講スルヲ要ス

(附記一四)

大正九年十一月三十日 閣議決定
琿春事件善後措置ニ閑スル件

閣議案

琿春事件ニ閑スル善後措置ハ之ヲ「我出動軍隊撤退ニ伴フ措置」事件自体ノ解決策(三)根本的解決策ニ分テ之ヲ決定スルヲ要ス

(一)我出動軍隊撤退ニ伴フ措置

形式ニ関シテハ先ツ両国政府代表者間ニ主義上ノ了解ヲ確立シ討伐計画其ノ他越境等ニ関スル細目ノ議定ハ之ヲ両国当局官憲ノ妥商ニ譲ルコトスル等日支軍事協定ノ例ニ倣フコト寧ロ得策ナルヘシ

(2) 間島協約ノ一部失効問題ノ解決

間島協約ノ一部ハ大正四年満蒙條約ノ結果当然失効スヘキモノナルニ付テハ此際支那政府ヲシテ之ヲ確認セシメ

以テ間島地方鮮人ヲシテ完全ナル我法權ニ服セシメ一般帝国臣民ト同一ノ権利及利益ニ浴セシムルハ畢竟不逞鮮人ヲ彈圧スルノ一助タルヘキヨミナラス一ハ以テ善良ナル鮮民ヲシテ其ノ堵ニ安ンセシムル所以ニシテ本問題ハ今次徹底的討伐ノ実行ト共ニ急速之カ解決ヲ期スルコト得策ナリ

(3) 本邦人顧問ノ聘用

本邦人若干ヲ間島地方ニ於ケル警務又ハ軍事顧問ニ傭聘セシムルハ前項朝鮮人ニ對スル我法權ノ確立ト相俟テ不逞鮮人ノ取締ヲ完備シ得ヘキト同時ニ無稽ナル支那側ノ小策ヲ抑圧スル所以ナリトス

(4) 臨時架設セル通信機関ニ關スル処置

(附記一五)
大正九年十二月一日水町大佐ヨリ山梨陸軍次官宛電報水電第一二号
間島問題ニ關スル我方ノ態度ヲ説明シ間島在住外人宣教師ノ協力ヲ求ムル覺書ヲ各宣教師ニ交付ノ件
シテ存続方ヲ承認セシムルカ少クトモ日支合弁トシ通信聯絡上我権利ヲ留保スルニ努力スルヲ要ス

水電第一二号
左記要旨覺書ヲ当地ノ各宣教師ニ交付セリ
詳細ハ「ウッド」ヨリ國際ニ打電セリ一部國際ヨリ陸軍省ニ送附スル筈全部郵送セリ尚覺書ハ朝鮮軍ニテ京城ノ新聞ニ掲載シ其ノ一〇〇〇部ヲ取寄セ当地方ニ広ク宣伝スル処置ヲ採レリ

覺書要旨

一、予ノ使命ハ當地方ニ出動シタル日本軍ト諸君トノ間ニ生スル誤解ヲ解キ両者意思ノ疏通ヲ図ルニアリ

及日本有識者ノ頗ル遺憾トスル所ナリ

六、茲ニ於テ予ハ諸君カ強國ノ（四字不明）下ニ在ル多數異民族ノ大戰後ニ於ケル思想ノ変遷ト諸君ノ言動トヲ一考セラレンコトヲ要望シ英國領土内ニハ多數ノ異民族アリテ英國ニ對シ反逆的陰謀ヲナシアルコトハ事實ナリ印度ノ非共同運動ノ如キ即チ是レナリ万—諸君カ鮮人ノ独立運動ニ對シ有形無形ノ援助ヲ与フルコト有リトセハ我日本ノ仏教家モ亦印度ノ非共同運動ヲ援助スルヲ至当トスルノ理由ヲ發見セン如斯宗教の騒動力日英ノ国交及世界人類ノ平和ニ極メテ有害ナルハ多言ヲ要セス

七、日英両国ハ共ニ困難ナル民族ノ問題ヲ有スルコトニ對シ吾人ハ諸君ト共ニ互ニ同情シ且ツ本国ノタメ有害ナル言動ヲ絶対ニ避ケ隔意ナキ共同動作ヲ為サンコトヲ熱望ス

八、諸君カ朝鮮ノ内外ニ於テ毫モ政治的事業ニ干与セズ只管宗教的事業ヲ以テ終始シ善ク日本官憲並ニ村民ト協力シ日本国民トシテ真ニ忠実ナル鮮人ヲ育英スルコトニ努力セハ日本政府及国民ハ諸君ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ表シ諸君ノ布教事業ニ對シ百般ノ援助ヲ与フルニ吝ナルモノニ

非ス若シ諸君カ予ノ赤誠ニ共鳴シ誠意ヲ披瀝シ将来吾人ト提携シ協同事ニ当ルヘキヲ宣明セラルニ於テ予ハ個人トンテモ即座ニ有形のノ援助ヲ提供スルニ躊躇セサル事ヲ茲ニ声明ス

九、如斯諸君ノ努力ニヨリ教育セラレタル善良ナル鮮人ハ日本全土到ル處ニ厚遇セラレ政治的ニモ社会的ニモ極メテ満足ナル地位ヲ得幸福田滿ナル生活ヲ遂ケ得ヘシ鮮人ノ幸福之ニ勝ルモノナカルヘン是レ実ニ神ノ真意ニ非ザルナキヤ敢テ諸君ノ考慮ヲ煩ス

(附記一六)

大正九年十二月四日内田外務大臣在本邦英國大使会談
水町大佐ガ在間島外國宣教師ニ交付シタル「ステートメント」

ニ関スル件

本件ニ關シ在本邦英國大使ハ十一月四日午後二時内田大臣ヲ本省ニ來訪シ何等本国政府ノ訓令ヲ奉シタル次第ニアラサル旨ヲ前提シ十二月三日國際通信所報水町大佐カ間島ニ於テ外國宣教師ニ与ヘタル「ステートメント」中同大佐カ宣教師ノ行動ニ対シ強ク攻撃ヲ加ヘタル点ヲ挙ヶ特ニ末段ノ……the Buddhists in Japan would be able to find

a legal reason for giving anti-British assistance to those behind the non-cooperation movement in India. The same thing may be applied to the Irish problem.

ナル文言アルヲ指摘シテ説明ヲ求メタルニ付大臣ハ本件ニ付テハ外務省トシテハ何等關知セサルノミナラス未タ何等報告ニサヘ接シ居ラス僅カニ新聞ニ依リテ承知シタル次第ナルカ為念陸軍省ニ問合セタル処同省ニ於テモ此ノ如キ「ステートメント」ヲ發スルコトニ付何等水町大佐ヨリ請訓又ハ指令ヲ与ヘタルコトナキハ勿論右ニ関スル

水町大佐ヨリノ報告モ未タ其前半丈ノミ接受シ居ルニ過キサル趣ニテ之ヲ要スルニ右「ステートメント」ナルモノハ單ナル水町大佐一個ノ意見ニ過キス決シテ authoritative announcement ニアラサル旨並ニ同大佐カ一個ノ私見ニセヨ其ノ不必要ナル記述ト用語甚タ妥当ヲ欠ケルモノアルトハ不幸ナリト軽ク応答セラレタル処同大使ニ於テモ諒解スル所アリタルモノノ如ク然ラハ右ノ次第本国政府ニ電報シ差支ナキヤト尋ネタルニ付大臣ハ何等差支ナキ旨答ヘラレ同大使ハ引取りタリ

右會見後木村書記官ハ命ヲ奉シテ直ニ山梨陸軍次官ヲ訪問

シ前記会見ノ次第ヲ告ケ場合ニ依リテハ右大臣、英大使会見談ノ趣旨ヲ新聞ニ会見談トシテ公表スルモ陸軍省トシテ異存ナキヤ否ヤヲ確メタル処同次官ニ於テモ水町大佐カ独断ヲ以テ此ノ如キ意味ノ文書ヲ外國宣教師ニ交付シタルハ甚タ意外トスル所ニシテ右会見談公表ニ付テハ何等異議ナキ旨承諾ヲ与ヘラレタリ尚木村書記官ハ同次官ニ対シ此際陸軍省ヨリ水町大佐ノ注意ヲ喚起シ此後今回ノ如キ文書又ハ「ステートメント」ヲ為サントスル場合ハ必ス予メ陸軍大臣ニ請訓スル様電命アリタキ旨依頼シ其快諾ヲ得タリ

木村書記官記

(附記一七)

大正九年十二月八日在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛電報第一三〇三号

輝春事件善後措置ニ關スル十一月三十日ノ閣議決定ニ対シ意見具申ノ件

第一三〇三号(至急)

貴電第六九〇号ニ關シ篤ト協議ヲ遂ゲタル処

(一)警察分署増設ノ件ハ間島地方ノ現状ニ鑑ミ已ムヲ得ザル施設ト認ムルモ本使ノ見ル所ニテハ時節柄中央政府ハ勿論地方官憲ノ諒解ヲ得ルコトモ到底不可能ナルベシト考ヘラ

其意ニ任スト同時ニ中央政府ヲシテ其ノ旨張作霖ニ訓令セシメ更メテ奉天ニ於テ交渉スルコトトシテハ如何カト存ズ可然御考慮ノ上何分ノ御回示ヲ請フ

猶本件解決条件中責任者处罚ニ関シ

(イ) 暴徒ニ官兵ノ参加セルハ果シテ確實動カスペカラザル証拠アル次第ナリヤ单ニ馬賊襲来ノ際遺棄セラレタル軍帽軍服ノ存在而已ニテ直チニ官兵ノ参加ト断言シ得ベキヤ否ヤ尚又此等ノ官兵ナルモノハ支那政府ニ於テ現在其ノ处罚ヲ実行シ得ル状態ニアリヤ否ヤ既ニ馬賊ニ投ジ去リタル者ノ处罚ヲ求ムルハ殆ト実行不可能ノコトヲ要求スルニ異ナラズスカル根拠ノ薄弱ニシテ実行殆ド不可能ト考ヘラレ而モ我方ニ取り実質上左迄得失アリトモ思ハレザル条件ヲ提出シテ徒ニ紛糾セシメ交渉ノ前途ヲ窮地ニ陥ラシムルハ果シテ得策ナリヤ否ヤ

(ロ) 右ノ如ク官兵參加ノ事実ヲ確実ニ証拠立ツルコト困難ナルカ若クハ少クトモ先方ニ於テ之ヲ否認スルニ有力ナル論拠アリト考ヘラル場合ニ直チニ直屬長官ノ处罚ヲ求メムトスルハ聊カ早計ノ嫌ナキニアラザル而已ナラズ先方ニ於テ現場ニアリタル軍帽軍服ハ馬賊ノ盜用ニ係レリトカ若ク

主權ニ対スル自覺ノ状態ハ日本ニ於テ殆ド想像シ得ザルガ如キ変遷ヲ為シツツアルニ際シ此趨勢ニ適応スルノ途ニ出テ斯徒ニ体面論ノミニ拘泥シ問題ノ「メリット」ニ相応スル範囲以外ニ条件ヲ拡大シ以テ交渉ノ成行ヲ窮地ニ陥ラシムルガ如キハ努メテ之ヲ避クベキコトト信ズ幸ニ本件条件提出前御再考ノ余地アラバ今一応ノ御詮議ノ上条件ヲ簡明適切ノ程度ニ止メ論拠ノ薄弱ナルカ若ハ到底貫徹ヲ期シ難ク併モ我方ニ差シタル得失ナキ条件ハ之ヲ打切ルコトヲ得ザルベキヤ御一考ヲ煩ハシタシ尚二ノ案(ニ)財産上ノ損害賠償ハ如何ナル範囲及程度ニ亘リ要求セラルル御意図ナリヤ之亦御回示ヲ請フ

次ニ(三)根本的解決条件ノ各項ヲ通覽スルニ幾分程度ノ相違ハ有ルモ多クハ支那ノ主權体面乃至ハ其ノ利益ト両立セザルガ如キ性質ノモノニ属セル処歐洲平和會議以来極度ニ昂進セル主權擁護自主外交乃至利権回収論ハ滔々トシテ一世ヲ風靡スルノ勢アルニ加ヘ現任外交總長就任以来率先此ノ風潮ニ迎合シ此ノ民論トシ機會ノ許ス毎ニ自主的強硬外交政策ヲ標榜シ今日ノ處相当成功ヲ収メ又民間ノ氣受ケ善キニ乘シ益々此ノ方針ニテ進マントスルノ傾向ア

ハ是等ノモノハ勝手ニ軍隊ヨリ逃亡シテ馬賊ニ投ジタルモノナリト弁解セバ我方ニ於テ直屬長官ノ責任ヲ要求スルノ論拠極メテ薄弱ナルガ如シ結局官兵参加ガ直屬長官承知ノ上ノコトナルコトヲ積極ニ證明スルニアラザレバ本条件ヲ支那側ニ承認セシムルコト困難ナルベシト思料ス

將又最後ノ条件(イ)支那政府ノ陳謝ニ関シテハ往電第一一五九号ヲ以テ一寸貴聞ニ達シ置キタル通り現外交總長ハ殆ド口癖ノ如クニ日本政府ガ支那政府ニ於テ何等干与セサル地方軍(脱)トシテ中央官憲ニ對シ常例ノ陳謝ヲ求ムルハ独リ他外国トノ交渉ニ照シ其ノ例ナキ而已ナラズ中央政府ノ知ラザルコトニ對シ中央政府ガ陳謝スルハ断ジテ妥当ニアラズト主張シ且彼ハ其ノ任内ニ於テ此ノ慣例ヲ更メムタメニ極メテ強固ナル決意ヲ抱持スルモノノ如クナルガ故ニ本条件モ其ノ貫徹ニ殆ド其ノ望ミナシト信ズ

之ヲ要スルニ薄弱ナル論拠ニ依ルカ若ハ相手方ノ体面上殆ド承諾シ得ザル事ノ明カナル条件ニシテ併モ実質上我方ニ差シタル得失ナキ条件ヲ細々ト羅列シ徒ニ問題ヲ錯綜紛糾セシメ其解決ヲ遷延未決ニ陥ラシムルガ如キハ決シテ策ノ得タルモノニ非ザルベク且下支那ニ於ケル思想ノ変遷國家

要スペキモノアリト思料ス

今試ミニ解決条件各項ニ付更ニ研究スルニ

一、帝国軍警ノ越境ニ閑スル日支協定ノ訂立ハ最近ノ間島撤兵ニ閑スル交渉ノ成行ニ顧ミルモ支那政府トシテハ飽ク迄強硬ニ反対スペキハ素ヨリ明瞭ニシテ協同討伐協定モ亦主権論ヲ基礎トシ到底我希望ラ容ルベシト思ハレズ特ニ本件ニ閑シテハ曩ニ張作霖其他ニ於テ余程迷惑ヲ感ジタルベキハ其後鮑督軍ガ森田總領事ニ対シ泣言ヲ洩ラセルニ見ルモ想像ニ難カラザルナリ從ツテ今回張作霖等地方側ニ於テモ前回ノ如ク容易ニ我希望ニ応ザルベシト認ム尤モ満洲ノ事件ハ或程度迄張作霖ニ任せ中央ヨリ余リ干涉セザル内情モアレバ正式ニ発議スル前ニ奉天總領事ヲシテ輕ク張作霖ノ意向ヲ探ラシメ其上ニテ提案ノ如何ヲ決定スルモ遅シトセザルベシ何レニシテモ中央政府ヨリハ絶対ニ承諾ヲ取付ケ得ル見込ナシ

二、間島協約ノ一部失効問題ニ閑シテハ数年前モ条約ノ解釈ニ閑シ両国ノ間ニ論争ヲ尽シタルコトアリタル以来本件ハ未決ノ儘今日ニ至リタル次第ノ処今日之ヲ提出スルモ恐ラク數年前ト同一ノ論争ヲ繰返スニ過ギズ結局我解釈ノ承

約ヲ得ザルノミナラズ四阻ノ状況ハ却テ平地ニ風波ヲ生ジ新タニ葛藤ヲ起スニ終ル無キ歟ト推察ス要スルニ本件ハ条約ノ解釈論ノ相違ニシテ此際支那政府ヲシテ我解釈ニ同意力ヲ充実シ事實上所在ノ朝鮮人ニ我法權ヲ推及シ万一支那側ニ於テ之ニ干渉ヲ試ムルガ如キ場合ニハ一々實際問題トシテ我條約上ノ解釈ヲ主張シ以テ之ト抗争シ事實上朝鮮人ニ対スル我法權ノ確保ヲ期スル外アラザルベシト信ズ

三、本邦人ノ顧問傭聘ノ件ハ張作霖若ハ吉林督軍ニ於テ承諾スレバ兎モ角此際間島問題若ハ琿春事件ニ閑スル善後処置トシテ中央政府ニ要求スルトモ恐ラク之ヲ承認セザルベク尤モ本件ハ事柄夫レ自身トシテハ無理ナル要求ニモアラザレバ間島問題若ハ琿春事件ト引離シ適當ノ時機ニ穩カニ張作霖若ハ吉林督軍ニ申込見ルモ一策ナルベシ

四、間島地方ニ臨時架設ノ通信機関ヲ我通信機関トシテ存続スルコトヲ承認セシムルカ若ハ日支合弁トシテ通信連絡上我權利ヲ留保スルコトハ何レモ支那ノ主権ニ閑係アル問題トシテ之亦到底承諾ヲ得ベキ見込ナキノミナラズ通信合弁ノ如キ形式ハ從来未ダ曾テ其例ナキヲ論拠トシ支那政府

ニ於テ同意ヲ肯ゼザルコト疑ラ容ルルノ余地ナシ尤モ今回設置ノ軍用電信電話ヲ支那官憲ニ附シ将来永遠ニ之ヲ存続シ彼我ノ通信連絡ヲ円滑確実ニ運用スルコトヲ保障セシムル位ノ程度ナラバ或ハ之ガ承諾ヲ取付ケ得ベキ望ナキニアラザルベキモ之以上ニ通信権ヲ我手ニ握ランコトハ到底成功覚束ナシト思料ス

(附記一八)

大正九年十二月十日在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛電報第

一三〇九号

水町大佐ノ間島外人宣教師ニ交付セル覚書ニ閑連シ同大佐一行ノ組織及派遣目的の問合ノ件

第一三〇九号

往電第一三〇八号ニ閑シ過日ノ佐藤少将ノ説明ト云ヒ又

水町大佐ノ書翰ト云ヒ之亦陸軍側宣伝事業ノ一端ト認メラ

ルル廻斯カル独リ善ガリノ武断的言明ハ事々百害アリテ一

利ナキコト蓋シ御同感ト存セラレ殊ニ例ヘハ宣教師ニシテ

朝鮮人ヲ日本忠誠ノ民タラシムルヲ得ザレハ日本ノ仏教徒

ハ印度愛蘭ノ反英運動ヲ助クルニ至ルヘシト云フカ如キハ

甚タ不謹慎ノ言ト云ハサルヘカラス抑モ水町大佐ノ任務如

何ハ前記來電以外本使ニ於テ何等承知スル所ナキモ右ハ暫

ク別トシ事假令我陸軍ノ行動其他他省所管ニ閑スルモノト雖モ苟モ我對外關係ニ直接影響アルヘキ宣伝事業ハ之ヲ外務省ニ統一シ(外務省ヲ中心トシテ他ノ各省ヨリ選出セル委員ヲ以テ宣伝機関ヲ組織スルモ可ナラン)若クハ少クトモ他省ニ於テ必ス一々外務省ト協議ノ上実行スル様可然施設セラルコト緊要ト思考ス差出デタル儀ナガラ所感ノ儘電票ス尚水町大佐一行ノ組織及派遣ノ目的等ニ付外国通信員其他ヨリ屢々質問ヲ受クルニ付右ニ閑シ何分ノ義御回報ヲ請フ

(附記一九)

大正九年十二月十五日内田外務大臣ヨリ在中国小幡公使宛電報

第七一六号

水町大佐一行ノ組織及派遣目的等ニ付回電並同大佐ノ声明ニ付

在本邦英國大使ニ与ヘタル説明等通報ノ件

第七一六号

貴電第一三〇九号ニ閑シ水町大佐一行ノ組織並派遣ノ目的等ニ付テハ客月十日本大臣堀堺領事宛電報第一五六号同領事ヨリノ転電ニ依リ已ニ御承知ノ苦ト存スルモ尚為念申進ス同大佐ハ陸軍省ニ於テ朝鮮軍司令官ヨリノ稟請ニ基キ間島地方ニ於ケル外國人關係並宣伝事務ニ從事セシムル為メ

下元岡村兩少佐及曳野中川兩大尉ヲ附シ派遣シタルモノニシテ其任務処理ニ付テハ領事西沢書記官並山口総督府事務官等ト協力スヘキ旨申合メラレ同時ニ當方ヨリモ右ノ趣前記出先各官ニ訓令シ置キタリ

然ルニ水町大佐ハ十二月一日予メ何等ノ諸訓ヲ為スコトナク且全然单独ノ意見ニ基キ御承知ノ通りノ通告ヲ私信体ニテ間島外人宣教師ニ交付シ事後其報告ヲ為シタル次第ニテ右通告ハ同大佐ト共ニ間島ニ赴キタル國際通信員「ウツド」ニヨリ直ニ打電セラレ十二月四日在本邦英國大使カ「ジャパン、アドヴァタイザー」所載右電報ニ基キ本大臣ヲ來訪質問シ来リタル際ニハ未タ陸軍省ニモ水町大佐ヨリ報告全部到達シ居ラス依ツテ本大臣ハ同大使ニ対シ右「ステートメント」ハ當方並陸軍省ニ於テ何等閑知セサル所ニシテ全然水町大佐一個ノ私見ニ過キス決シテ Authoritative Announcement ニ非サル旨並ニ仮令同大佐一個ノ意見ニモセヨ其不必要ナル記述用語甚タ妥当ヲ欠クモノアルコトハ不幸ナリト述ヘタルニ同大使ニ於テモ諒解スル所アリタルモノノ如ク辞去シタルカ一方水町大佐ニ対シテハ陸軍省ヨリ嚴重将来ヲ戒告セシメ置クト共ニ本件ニ関スル

行セラレタシト述ヘ日本軍隊撤退ノ時期ヲ質問シタルニ付本使ハ前記往電來照竝右懇請ノ次第八早速帝国政府ニ電報スヘキ旨並ニ日本政府ハ其ノ声明ニ反シ何時迄モ間島ニ駐兵スルノ考アラサルハ本使ノ確言シ得ル所ナル旨ヲ答フルト同時に北滿洲方面ニ於ケル支那兵士ノ不規律ナル狀況ヲ挙ケテ日本人露西亞人其ノ他ノ外国人ニ対シ横暴不遜ノ行為アルコト其ノ他支那軍隊カ不逞鮮人等ト私カニ通スル等地方官憲ノ甚タ不誠実ナリシ事例等ヲ指摘シ日本軍撤退後ニ於テ忽チ好マシカラサル事態ヲ生スルカ如キコトナキ様特ニ中央政府ノ痛切ナル考慮ヲ煩ハシ度ク同時ニ出先官憲へハ最モ嚴重ナル達ヲ為シ置カレ度シト附言シ置キタリ東少将ノ談ニ依レハ陸軍ニテハ間島方面へ尚當分ノ内四個大隊存置ノ意図ナルヤノ趣ナル處間島撤兵ノ件ハ既ニ支那政府ヘ公然声明ノ次第モアリ本使ヨリモ再三頗る責めヲ以テ言明シ居ルコト御承知ノ通リニ付兔ニ角帝国政府ハ此ノ際直ニ声明ヲ確実ニ實行セラルル責任アルハ勿論ノ儀ナルヘク此ノ際言ヲ二三ニシ撤兵ヲ遷延スルカ如キコトアラハ帝国政府ノ信用ニ関スルコト多大ナルノミナラス且之ニ依リテ大局上我カ得ル所一小部隊ノ留置ニ依リ地方的ニ

一般ノ誤解ヲ一掃スル為メ十二月十一日外務當局談トシテ左ノ通り発表シ置キタリ

間島ニ於テ水町大佐カ外國宣教師ニ當テタル通告ニ関シ恰モ帝國政府ノ責任アル声明ナリト見做シ新聞紙上彼此批評シ居ル處右通告ニ付テハ政府ハ何等閑知スル所ナク畢竟右ハ單ニ同大佐一個ノ私見ニ過キス

（附 註 報領事宛第一五六号ヲ省略セリ）

大正九年十二月十七日在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛電報 第一三三八号
間島撤兵早急実行方電票並撤兵時日回電方票請ノ件

第一三三八号

往電第一三三一号ニ關シ十二月十五日本使外交總長ニ面会ノ節間島日本軍撤退方ニ付續々懇請シ間島地方支那軍隊配置モ既ニ通知セル通り完了シ在留日本人ノ保護モ十分ニ出来得ルコトナリタル次第ニ付日本政府予テノ約束ノ通り其ノ軍隊ハ速ニ撤退アリタク且各外國軍隊ト支那軍隊一地方ニ同シク駐屯スルニ於テハ意志ノ疏通ヲ欠ク等両國軍憲ニ於テ十分取締ルヘキコトハ勿論ナルモ自然事端ヲ惹起スルノ虞ナキニシモアラス旁々以テ至急日本軍隊ノ撤退ヲ実

得ル所ニ比シ遙ニ大ナルヘキヲ信ス此ノ点帝國政府ノ最モ痛切ナル考慮ヲ煩ハシ度シ前記外交總長ノ懇請報告旁々卑見電票ス尙外交總長ノ質問ニ係ル帝國軍隊撤退ノ時日至急御回電ヲ請フ

（附 註 小幡公使十二月十六日發第一三三一号ヲ省略セリ該電ハ外交總長ヨリ十二月十四日附公文ヲ以テ吉林督軍ノ間島方面駐兵配置狀況ヲ通報越シタル旨ヲ報告シタルモノナリ）

大正九年十二月十八日内田外務大臣ヨリ在中国小幡公使宛電報 第七二六号
珲春事件善後措置ニ関スル開議決定ニ對シ提示セラレタル意見ニ關シ回訓ノ件

第七二六号

貴電第一三〇三号ニ關シ

（一）警察力充実ノ件ハ警察官ノ増員、経費支弁等ノ点ニ付目下出京中ノ朝鮮總督府當局ト折角協議中ニシテ或ハ警察力ハ寧ロ之ヲ領事館及分館所在地其他二三重要地點ニ集中シ各地方ニハ隨時捜査隊ヲ派遣スル方得策ナラスヤトノ意見モアリ分署増設案ト比較研究ヲ遂ケ何レニカ決定スル筈ナルカ愈々分署増設ニ決定シタル場合表向キ支那側ノ承認ヲ得ルコトハ曩ニ赤塚總領事カ張作霖ニ試ミ

タル交渉ノ模様ニ見ルモ到底六ヶ敷カルヘシト思考セラルニ付貴見ノ通り軍隊駐屯中ニ之カ実行ニ着手シ後ハ事実問題ニ委スルノ外ナカラソ

(2) 事件自体ノ解決案ハ貴見ノ通り此際速カニ交渉ヲ開始スル方可然交渉ノ場所ニ付テハ公式ノ交渉ハ矢張リ北京ニ於テ各項ヲ一括貴官ヨリ中央政府ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトトシ交渉経過ノ模様ニ依リテハ一面張作霖ト折衝シテ北京ニ於ケル交渉ノ迅速円満ナル解決ヲ計ルコトト致度キニ付左記各項御含置ノ上直ニ交渉開始相成タシ

(1) 死傷者ニ対スル弔慰金及慰藉金ハ内地人即死者警部

二、外九名、負傷者十一名、鮮人即死者巡查一、外六名、負傷者巡查一名ニ対スル相当ノ弔慰金、慰藉金ヲ要求シ

(2) 財産上ノ損害賠償ニ付テハ暴徒ノ暴行ニ因リ政府及居留民（鮮人ヲ含ム）ノ被リタル財産上ノ直接損害ノミノ賠償ヲ求メムトスル意向ニシテ政府ノ損害ハ調査中ナルモ居留民ヨリ直接損害トシテ届出タル金額総計ハ金九十八万五千円余ニ達セルカ右ニ対シテハ一応春領事ヲシテ査定減額セシメタル上更ニ本省ニ於テ嚴

同罪ト看做スヘキモノニシテ茲ニ所謂処罰トハ全然別個ノ処刑ヲ求ムルノ要アルヘシ

(3) 地方官憲ノ処罰、事件勃発當時ニ於ケル琿春地方官憲ノ無能無責任ノ実況ハ西沢発本省宛電報第八号及第一〇号（即チ琿春來電第三八号及第四四号）ニ依リ御承悉ノ通リニ有之一々右事実ヲ指摘シテ知事等ノ厳重ナル懲罰ヲ求メラレタシ

(4) 延吉道尹ノ懲戒、新任道尹陶彬カ本年七月赴任以来不逞団ノ取締ニ付相当誠意ヲ示シ居ルコトハ御承知ノ通リニテ此際余リ彼ヲ責ムルハ面白カラナルモ責任官憲トシテ相当懲戒ヲ求ムルノ要アルヘシ

(5) 支那政府ノ陳謝、外交總長ハ「中央政府ノ知ラサルコトニ対シ中央政府カ陳謝スルハ断シテ妥当ニアラス」ト主張シ居ル趣ナル処コハ甚タ理由ナキ言説タルノミナラス外交總長ヨリ貴官ニ交付セル客月十六日付外交部公文中ニ「凡ソ地方ノ治安及居留民ノ保護ニ關シテハ本国ノ行フヘキ事ニ属スルヲ以テ政府ハ當然完全ニ責任ヲ負フヘク」云々トアル言明ノ趣旨ト全然矛盾セルモノト云フヘク仮令中央政府ノ何等干与セサル

密ナル查定ヲ加フル筈ニテ目下(1)項ト共ニ審議中ニ付追テ何分ノ儀申進スヘキモ先以テ支那政府ニ対シ主義上右二項ノ承認ヲ求メ置カレタシ
(3) 責任者ノ処罰中(1)ニ付テハ領事館ヲ襲撃セル暴徒中二官兵ノ加入シ居リタルコトハ館内ニ斃レタル賊ノ中官兵ノ上衣ヲ着シタル者アリタル事実、遺棄セラレタル軍帽、軍服及当日馬賊ニ拉致セラレ途中ヨリ逃げ帰レル鮮人朴民学ノ証言以外有力ナル証拠ナキモ當日支那軍警等カ市内ノ混亂ニ乘シ掠奪ヲ働キタルハ疑ナキ事実ニシテ該地支那側官憲モ之ヲ認メ居ルノミナラス現ニ巡警李佩鳳カ鮮人梁昌坤ノ家宅ニ侵入シ反物ヲ奪取セムトシタルヲ發見セラレタル事実ハ牟警察署長モ之ヲ承認セセル所ナリ（琿春發本省宛電報第四四号即チ西沢來電第一〇号参照）就テハ嚴重取調ノ上此等暴行者ヲ嚴刑ニ処セシムルノ要アルハ勿論ニシテ同時ニ(1)其直屬長官ノ処罰モ亦当然ノ義ナリ而シテ之カ処罰ヲ要求スル理由ハ長官トシテ其部下ニ対スル取締上ノ責任ヲ問ハムトスルノ趣旨ニシテ若シ長官承知ノ上ニテ斯ル暴行ヲ働くシメタルコトアリトセハ夫ハ暴行者ト

地方の出来事ニセヨ對外關係ニ於テハ當然中央政府ニ於テ其責任ヲ負フヘキモノタルハ一点論議ノ余地ナキ所ニ有之現ニ帝国政府ノ如キハ福州事件ノ如キ海外ニ於ケル出来事ニ對シテスラ帝国臣民ノ行為ニ付屑ク其責ヲ負ヒ支那政府ニ對シ遺憾ノ意ヲ表シタルニアラスヤ況シヤ今次琿春事件ノ如キ帝国領事館ニ對シテ支那國民ノ暴行ヲ恣ニセシメ當然之カ防遏ノ責任アル支那政府ノ官吏ニ於テ何等鎮压ノ手段ヲ執ル克ハス從前殆ト其類例ヲ見サル程ノ重大事件ニ對シ中央政府ヲシテ之カ責任ヲ回避セシムルカ如キハ断シテ許スヘカラサル所ナルニ付貴官ハ右ノ趣旨ヲ以テ嚴重ニ中央政府ノ責任ヲ問ハル様致度ク尤モ責任負担ノ意ヲ表スル形式ニ至ツテハ必スシモ「陳謝」ナル文字ニ拘泥スルノ要ナシ

以上(1)以下各項ハ成程其實質上我方ニ取り左シテ得失アル条件ニハアラサルモ帝国政府ニ於テ強ク之ヲ主張セムトスル所以ノモノハ敢テ体面論ニ拘泥スル次第ニハ無之蓋シテ那地方ノ現状ハ今尚旧態依然タルモノアリ到底安心シテ居留民等ノ保護ヲ倚托スルニ足ラナルハ最近幾多実例ノ証

明スル通リニシテ先ツ其内ヲ治ムルコトヲ努メシテ外交
総長独リ所謂自主的外交ヲ振廻スモ到底列國ノ認容ヲ得ル
克ハサルヘク支那政府及國民ハ宣シク對外硬ヲ呼号スル以
前ニ先以テ内治ニ全力ヲ注キ外国ノ信賴ヲ得ルノ途ニ出ツ
ルヲ要ス帝国政府カ暉春事件ニ關シ煩シキ条件ヲ提ケテ中
央政府ヲ責メムトスル所以モ亦此意味ニ於テ支那政府及國
民ノ切実ナル責任心ト自覺トヲ喚起セムトスルノ精神ニ外
ナラス且又日本政府ハ弱キ政府当局ニ對シテハ強硬ノ態度
ヲ以テ之ヲ追窮スルニ不拘強キ政府当局ニ對シテハ軟弱ナ
リトノ感想ヲ支那官民ニ与ヘ帝国政府ノ公明ナル精神ヲ疑
ハシムルノ結果トナルハ甚大面白カラサルニ付サラヌタニ
各種案件ノ輻輳セル際現在ノ如キ風潮ノ裡ニ此ノ如キ外交
総長ヲ對手トシテ更ニ一難件ヲ加ヘ之カ交渉ノ任ニ当ラル
ル貴官初メ館員苦心ノ程ハ万々諒察スルモ邦家ノ為最善ノ
努力ヲ尽サレムコト切望ニ堪ヘス

次ニ(3)根本的解決条件下中ニ付テハ帝国軍警ノミノ越境ヲ
承認セシムルハ素ヨリ至難ノコトナルヘント雖モ往電第六
七五号ヲ以テ申進シタル如ク支那側ノ申出ニ係ル對讯弁法
類似ノ弁法ヲ協定スルニ當リ彼我一定ノ地域ヲ限リ相互的
努力ヲ尽サレムコト切望ニ堪ヘス

(2) 間島問題ノ根本ハ所謂墾民ノ取締保護ニアリ我方從來
ノ解釈主張ハ飽ク迄固持セサルヲ得サル次第ナルカ今日
再ヒ條約論ヲ持出スモ到底支那側ヲシテ我解釈ニ同意セ
シムルノ見込ナキノミナラス却テ我方ニ不利益ナル結果
ヲ招クヘキ状況ニ在リトセハ不得已貴見ノ通リ實際問題
起ル毎ニ之ヲ主張スル決心ヲ以テ事實ニ於テ我法權確立
ノ歩ヲ進ムルノ外ナシト雖モ本交渉ノ際支那側ニ於テ自
説ヲ主張スル場合ニハ我方ニ於テモ從来ノ解釈ヲ支持シ
之ヲ反駁セラルハ勿論之カ解決提議ノ好機會ヲ捉フコ
トニ不絶注意ヲ払ハル様致度シ

(3) 顧問傭聘ノ件ハ素ヨリ之ヲ中央政府ニ申込ム意向ニア
ラス適當ノ機会ニ張作霖又ハ鮑督軍ニ申入ルルカ又ハ彼
等ヨリ進ムテ我方ニ之ヲ申込マシム様内交渉ヲ奉天ニ
於テ行ハシムル考ナリ

(4) 通信機關ノ件モ之ヲ承認セシムルコトハ困難ナルヘク

寧口(1)ノ対讯弁法中ニ之ヲ包含セシムルコト得策ナリト
思考セラル而シテ電信線ハ之ヲ朝鮮ト通信聯絡ニ利用シ
右聯絡ノ為我電信技手ヲ局子街百草溝頭道溝暉春等主要

局内ニ傭聘セシムルノ条件ニテ無償ニ支那側ニ讓与スル
モ一方法ナリ之力為ニハ寧口其ノ詳細ハ奉天ニテ協議シ
中央ニ於テハ通信機關ノ完成ヲ期スル為右軍用電線ヲ支
那側ニ讓与スルコト支那側ハ之ヲ利用シテ我朝鮮國境聯
絡ニ付協定スルコトノ二主義ヲ決定スルニ止ムルモ可ナ
リ

尚吉会鉄道ノ件ニ付テハ暉春事件ヲ援用シテ其速成ヲ促ス
コト可然モ事件自体ノ交渉ハ之ヲ引離ス方得策ナルヘキ
ニ付更ニ考究ノ上追テ何分ノ儀申進スヘシ

右貴電第一三〇三号ト共ニ奉天ニ転電シ本件ニ付テハ絶エ
ス北京ト連絡ヲ保チ交渉ノ進行ヲ助クルコトニ努力セラレ
タキ旨本大臣ノ訓令トシテ申添ヘラレタシ

尚本電ハ為参考奉天ヨリ間島ヘ転電セシメラレタシ

(附記二二)

大正九年十二月二十八日在中國小幡公使ヨリ内田外務大臣宛電

ニ不逞團ノ追撃逮捕ヲ為シ得ル意味ノ規定ヲ加フルコトハ
所謂主權論ニモ触レス必シモ無理ナル希望ニアラスト思
考セラルニ付至急右具体案作成ノ上電報相成度ク尤モ本
件ハ前記(2)事件自家ノ解決案トハ引離シテ別ニ商議ヲ遂ク
ル方得策ナルヘシ

(2) 間島問題ノ根本ハ所謂墾民ノ取締保護ニアリ我方從來

ノ解釈主張ハ飽ク迄固持セサルヲ得サル次第ナルカ今日
再ヒ條約論ヲ持出スモ到底支那側ヲシテ我解釈ニ同意セ
シムルノ見込ナキノミナラス却テ我方ニ不利益ナル結果
ヲ招クヘキ状況ニ在リトセハ不得已貴見ノ通リ實際問題
起ル毎ニ之ヲ主張スル決心ヲ以テ事實ニ於テ我法權確立
ノ歩ヲ進ムルノ外ナシト雖モ本交渉ノ際支那側ニ於テ自
説ヲ主張スル場合ニハ我方ニ於テモ從来ノ解釈ヲ支持シ
之ヲ反駁セラルハ勿論之カ解決提議ノ好機會ヲ捉フコ
トニ不絶注意ヲ払ハル様致度シ

(3) 顧問傭聘ノ件ハ素ヨリ之ヲ中央政府ニ申込ム意向ニア

ラス適當ノ機会ニ張作霖又ハ鮑督軍ニ申入ルルカ又ハ彼
等ヨリ進ムテ我方ニ之ヲ申込マシム様内交渉ヲ奉天ニ
於テ行ハシムル考ナリ

報第一三七〇号

間島撤兵ノ當面実行困難ナル事由及撤兵完了ノ大体ノ時期開示
方稟請ノ件

第一三七〇号(至急)

貴電第七四〇号敬承然ルニ(1)貴電第六三五号中ノ説明ハ當
時口上書ニハ記載セス(十一月九日附機密第四四三号參
照)口頭ヲ以テ外交總長ニ申聞ケアルモ如何ナル程度ニ徹
底シ居ルヤ明ナラス畢竟ハ先方ニ於テ主トシテ右口上書ヲ
楯ニ容易ニ承服ヲ肯セサルヘク現外交總長ヨリ十二月二十
七日公文ヲ以テ支那軍隊既ニ夫々配置ヲ了シタル故ヲ以テ
撤兵ニ関スル回答ヲ催促シ來リ居リ又當時外國新聞記者等
ニハ主トシテ右口上書ノ趣旨ニミ依リテ説明シ居ル行懸
アリ右口上書ノ趣旨ト甚シク相違ノ事実顯ハル時ハ外間
ノ攻撃必ス猛烈ヲ極ムヘク(2)又支那軍隊現在ノ配置及四隅
状況カ領事館並在留民ノ保護ニ遺憾ナシト認ムルヲ得スト
ハ具体的ニ如何ナル点ヲ指称スル義ナリヤト反問シ來ルハ
必定ナルヘク(3)尚我警察力充実完了ニハ相當期間ヲ要スヘ
キト同時ニ其完了時期大体ノ御見込ハ之アルヘキニ付此際

期日トシテ支那側ニ通告セハ依テ以テ我他意ナキヲ明ニシ

テ諒解セシムルニモ好都合ナルヘシト信ス就テハ(甲)支

那軍隊現在ノ配置カ領事館並在留民ノ保護ニ遺憾アリト認

メラル其具体的事由即チ例ヘハ兵數部署其他実地ニ付拳

指シ得ヘキ事項(既往本使ノ与ヘ居ル説明及言質ニ鑑ミ单

ニ支那側從來ノ遣口ニ徵スレハ如何ニモ不安心ナリト云フ

カ如キ漠然タル理由ノミニテハ不充分ト思料ス)(乙)現

在該地方不逞鮮人其他ノ状況ニ於テ特ニ撤退ヲ不安トスル

具体的事実アラハ其詳細及(丙)新事態発生セサル限り我

軍隊撤退全部終了ハ大体運クモ何月何日ノ予定ナリト云フ

其期日(右ハ貴電第七四〇号後段支那ニ対シ説明上 unreasonable ナラサル様可成短カキ期間タル必要アルト同時ニ

警察力充実所要期間ヲ相當余裕ヲ付ケテ見積ラレ之ヲ基礎

トシテ算出相成タク若シ右期日ニ至リ警察力充実結了ニ到

ラサルモ軍隊撤退ハ之ヲ決行スルノ覚悟無カルヘカラサル

ハ勿論ナリ)以上三点至急回電ヲ乞フ之ヲ要スルニ此際支

那側ニ対シテハ表裏無ク否表裏アリトノ感触ヲ先方ニ与フ

ルコト無ク虛心坦懐確言ヲ与ヘ置クコト緊要ニシテ琿春事

件自体交渉上ニモ有益ト思考スル次第ニ付其辯駁ト御諒承

關係電報 往電第一三七〇号

本件ニ關シ左記書類及送付候也

甲 号 十二月二十七日附外交總長來翰寫
書類要目 備考

乙 号 同上訳文

本信写送付先 間島、吉林、奉天

(附属書)

十二月二十七日附顏外交總長ヨリ小幡公使宛書翰使字第六七号
写及訳文

間島撤兵時期ニ閔シ照会ノ件

甲 号

使字第六七号

照会

外交總長頗為照会事關於琿春案撤退日本軍隊事業於本月十四日將地方官在延屬各處配置駐兵情形照會

貴公使並請転電

貴國政府依照歷次声明剋日將軍隊悉數撤退在案現已多日尚未准復查中國軍隊既經在延屬各處配置妥協地方秩序足可維持所有僑居各該處貴國人民決不至再有危險之虞自不待言是以

ヲ乞フ

尚乍序琿春事件自體ノ交渉ハ尼港事件ノ結了ヲ俟チ提出ノ考ナリシノミナラズ右ニ閔聯シ先方ヨリ撤兵問題ニ閔スル

我明答ヲ迫ルコト必定ナル為未タ会談シ居ラザル処既ニ年

末ト相成リ会談ニ便ナラズ旁々以テ撤兵問題ニ閔シ前記三

点ヲ明カニセル回答ヲ与ヘタル上改年早々会談ノコトト致

スペキニ付御含アリタシ

奉天、間島、吉林へ転電セリ

(附記二三)

大正九年十二月二十九日附在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛
機密第五〇九号

間島撤兵ニ閔スル外交總長來翰寫送付ノ件

附屬書 十二月二十七日附顏外交總長ヨリ小幡公使宛來翰使
字第六七号写及訳文

間島撤兵時期ニ閔シ照会ノ件

機密第五〇九号

大正九年十二月二十九日

(大正十年一月六日接受)

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

間島撤兵問題ニ閔スル件

在支那

貴國軍隊應即早日完全撤退以符前言為此再行照會

貴公使即希查照本部前次照會迅與照并並將撤尽日期見復為荷須至照會者

右 照 会

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民國九年十二月二十七日

乙 号

訳文

大正九年十二月二十七日

顏外交總長

小幡公使宛

以書翰致啓上候琿春事件日本軍隊撤退ノ件ニ閔シテハ已ニ

本月十四日地方官力延屬各處ニ駐兵ヲ配置シタル次第ヲ貴

公使ニ照會シ且貴國政府へ転電ノ上屢次ノ声明ニ照シ日ヲ

定メテ軍隊ヲ全部撤退セラレントヲ求メ置キタル処其後

日子ヲ経タルニ未タ回答ニ接セス然ルニ支那軍隊ハ既ニ延

属各處ニ適當ニ配置セラレ地方秩序ハ維持スルニ足ル次第

ニテ各該處ニ僑居セル貴國人民ニハ決シテ再ヒ危険ノ虞ア

ルニ至ラサルヘキハ自カラ言フヲ待タス右ノ次第ナルニ依

リ貴国軍隊ハ慮サニ速カニ完全ニ撤退シ以テ前言ト符合ス
ヘキ儀ニ有之候依テ更ニ及照会候間貴公使ニ於テ本部前回
ノ照会ヲ御查照相成速カニ照弁セラレ度且全部撤退ノ日期
ニツキ御回答相煩度此段照会得貴意候 敬具

四一四 一月十四日 在中国小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

璉春事件善後措置ニ対スル解決案ヲ中國外交

部へ申入並中國側質問ニ付問合ノ件

第二五号

(一月十五日接受)

璉春事件自体解決交渉方ノ件ニ關シ一月十四日徳川ヲシテ
外交總長ヲ往訪ノ上本使ハ先ニ何レ本件自体ノ解決ニ付テ
ハ追テ申入ル所アルベキ旨申述べ置キタル所此程本件要
求条件提議方法ニ關スル帝国政府ノ訓電ニ接シタルモ本使
微恙ノ為直チニ面陳スルコト能ハズ今日ニ及ビタル次第ナ
ルガ余リ遲延スルニ付不取敢右電訓ノ趣旨申述べシムル為
代理者ヲ差出シタル次第ニテ詳細ハ何レ遠カラズ全快次第
罷リ出デ面陳スペキ考ナル旨本使ノ伝言トシテ申述べシメ
徳川ヨリ客年貴電第六九^(註1)号ノ一列記ノ各項ヲ記載セル書
付〔ホ〕支那政府ノ陳謝ハ「四」トシテ「三」ノ下ニ入

シタルニ付右ハ本使ニ經伺ノ上確定スヘキ旨答ヘ置キタル
趣ナリ、右ニ対シテハ如何回答シテ然ルベキヤ折返シ電報
ヲ請フ

間島奉天吉林へ転電セリ

註1 大正九年十一月三十日閣議決定四一三文書附記一四参照
2 前掲四一三文書附記一九参照

四一五 一月十四日 内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

間島ヨリ撤兵決定ニ付通報ノ件

第一四号

客年往電第五二四号ニ關シ

間島地方ニ於ケル帝国軍隊ハ往電第五二五号閣議決定ノ趣
旨ニ從ヒ十一月末日ヲ以テ討伐行為ヲ打切り爾來順次引揚
ヲ實行シツツアリシカ領事館並居留民保護ノ為メ竜井村三
ヶ中隊、璉春二ヶ中隊、局子街、頭道溝及百草溝各一ヶ中
隊計八ヶ中隊即チ二ヶ大隊(但シ各中隊ノ兵員ハ何レモ約
百名)ヲ残シ他ハ全部本月七日ヲ以テ朝鮮内地ニ引揚ヲ了
シタル處之ヨリ先支那政府ニ於テハ小幡公使ヨリノ交渉ニ
基キ當該地方官憲ニ命シテ支那軍隊ヲ同地方ニ配置セシメ

其結果顏外交總長ヨリ小幡公使ニ対シ十二月十四日付公文
ヲ以テ支那軍隊配備ノ狀況ヲ通告スルト同時ニ我軍隊ノ全
部撤退ヲ要求シ來リタルニ付キ帝国政府ハ同公使ヲシテ支
那政府ニ於テ着々軍隊ノ増派ヲ實行シツツアル旨通報ニ接
シタルハ帝国政府ノ満足スル処ニシテ我方ニ於テモ支那軍
隊ノ配備ニ順応シ曩ニ声明シタル通り現ニ逐次撤兵ヲ実行
シツツアリ而シテ帝国領事館及分館所在地ニ於ケル帝国軍
隊モ該地ニ配置セラレタル支那軍隊力克ク現実ニ秩序ヲ維
持シ保護警備ノ上ニ何等不安ナキコト確認セラルニ至ラ
ハ是亦直ニ撤退スヘキコト勿論ナル旨回答セシムルコトト
シ小幡公使ハ本月六日付公文ヲ以テ右ノ趣旨ヲ外交總長ニ
回答シタリ然ルニ在本邦支那公使ハ本月十一日本大臣ヲ來
訪シ本国政府ノ電訓ニ依ル趣ヲ以テ我方殘留部隊撤退ノ確
タル期日承知シタキ旨申出タルニ付キ右小幡公使ノ回答ト
同様ノ趣意ヲ述ヘ全部撤兵ノ期日ハ今日ヨリ之ヲ確言シ克
ハサルモ帝国政府ノ眞意ハ一日モ速カニ其時期ノ到来セム
コトヲ希ヒ居ル次第ナルニ付キ宜シク帝国ノ誠意ニ信頼シ
テ安心セラレムコトヲ希望スル旨答ヘ置キタリ

尚政府ニ於テハ此際間島地方ニ於ケル我警察組織ヲ改善シ
レズ)ヲ一読ノ上外交總長ニ手交シ尚客年貴電第七^(註2)
ニ依リ説明ヲ加ヘタル所外交總長ハ本使ノ伝言及帝国政府
ノ申入ノ趣旨ハ充分了解シタルニ付尚篤ト解決案各項ニ付
研究スルコトトスベキガ唯茲ニ一言シ度キハ自分ノ見ル所
ヲ以テスレバ此際本件解決案ヲ提出セラルハ時期尚聊カ
早キ感アリトテ往電第二三号所載駐兵及警察官出動ノコト
ヲ挙ゲ蓋シ右駐兵等ノ問題ニ付帝国政府ニ於テ未ダ前約ヲ
履マレザル以前本案商議ニ入ルハ時期必シモ未タ適當ナリ
トハ考ヘラレズ尤モ本件ノ如キ懸案ハ本来一日モ速カニ片
付クルコト両國親交ノ為望マシキ儀ナレバ本件ノ迅速解決
ニ付異議アル次第ニハ勿論之ナク唯駐兵問題ニ關聯シ自分
ノ感想ヲ申述べブル次第ナリ尚本件ニ關聯セル支那側ノ損害
ニ付キ段々地方官ヨリ報告及地方民代表者來京陳情ノ次第
アリ目下人ヲ派シ専ラ調査中ニ付其結果ニ依リ支那側ヨリ
モ何レ申入ル所アルベシ兎ニ角委細ハ本使全快ノ上篤ト
商議ヲ尽ストト致スベシト答ヘタルニ付徳川ハ駐兵及警
察官問題ニハ全然触ルルヲ避ケ右御申述ノ次第ハ委細本使
ニ報告スペキ旨ヲ述ブルニ止メ置キタル趣ナリ尚外交總長
ハ「三」ノロ直屬部隊長トハ具体的ニ何人ヲ指スヤト質問

以テ警察力ノ充実ヲ計リタキ所存ニテ之力人員ノ配給、経費支弁等ノ諸点ニ付キ目下朝鮮總督府ト協議中ナルカ前記残留二ヶ大隊ハ右警察力充実ノ完成ヲ俟チ全部撤退スル筈ナリ右貴官内密ノ御含迄ニ申添フ
在英大使及在米、在カナダ各主要領事館及在墨、智、伯、亞各公使ニ転電シ在英大使ヲシテ在欧各大公使ニ転電セシメラレタン

四一六 一月十四日 関東軍參謀部ヨリ
大正十年一月十四日 墇原外務次官他宛

璉春問題ト張作霖ノ態度ニ関スル件

閑參謀第一五号 (大正十年一月二十日接受)

閑東軍參謀部

特報（支那）第三号

璉春問題ト張作霖ノ態度

本書発送先

參謀次長 陸軍次官 外務次官 閑東廳事務總長 旅順要塞司令官 同要港部司令官 閑東憲兵隊長 駐劄師團參謀長 鉄嶺駐劄旅團長 独立守備隊司令官 朝鮮軍參謀長

滿洲ニ於ケル不逞鮮人ノ取締ニ閑シ張巡閱使ハ最初ヨリ比較的日本ノ真意ヲ諒解シ好意ヲ以テ之ニ當ラントスルノ意アリシモ其ノ実蹟ノ毫モ拳ラサル所以ノモノハ勿論支那ニ流ノ曖昧之ニ存スルモノアランモ又彼カ屢次ノ嚴訓モ遂ニ能ク下級者迄徹底セシムル能ハサリシカ故ナリ否現時ニ於ケル支那ノ状態之カ实行殆ント不可能ナルモノアレハナリ彼カ昨冬朝鮮總督府提議ノ日本警察官ヲ以テセントスル搜査ニ反対シ又本年初閑東軍ノ西間島方面ニ実施セントセル耐寒行軍ヲ拒絶シ極力自己ノ責任ヲ以テ取締ニ任スヘキヲ言明セルハ一ハ支那ノ主權ヲ重ンシ其ノ体面ヲ維持セントスルト一ハ中央政府並反対各派ノ攻撃ヲ避ケントスルニアリシハ想像ニ難カラサルナリ
然ルニ不逞鮮人ノ活動ハ依然トシテ屏息セサルノミナラス

却テ其ノ氣勢ヲ高メントシ日本側ノ警告亦急ナルモノアリシヲ以テ彼モ亦曩日ノ言明ヲ重ンシ先ソ自己直接管下タル奉天省内所謂西間島方面ニ坂本、上田両警察顧問ノ指揮スル両捜查班ヲ派遣シ稍其ノ功ヲ收メ更ニ之ヲ北間島方面ニ及ホサンコトヲ期セリ當時間島方面ニ於ケル不逞鮮人ノ行動ハ西間島ニ比スヘクモ非ス公然學校ヲ設立シ武装團ノ演練ヲ実施スル等甚タ不穏ノ形勢アリ遂ニハ我軍隊ノ一部越江追撃スルノ止ムナキ状況ヲ現出スルニ至レリ茲ニ於テ乎張巡閱使ハ日本ノ要求ニ応シ共同討伐ノ実行ニ同意シ中央ニ對スル責任ハ彼自ラ負担スヘキ決心ヲモ為スニ至リンカ是彼カ本心ニ非ストスルモ支那時局ノ将来ヲ達観シ日本ノ感情ヲ害スルノ不利ナルヲ看取セル彼ノ利己主義ヨリ出タルニセヨ兎ニ角好意ヲ以テ本問題ニ對セントスルノ態度ハ吾人之ヲ認ムルニ咨ナラサルナリ
然ルニ吉林督軍鮑貴卿ノ態度煮切ラス同省長徐鼐霖之ニ反対セル為張使モ亦無下ニ之ヲ郤クル事能スシテ遂ニ間島方面実況ノ視察ト一部ノ捜査ヲ行ハシテ延吉道尹ノ交迭及斎藤顧問一行ノ派遣ヲ見ルニ至リシモ時已ニ遲ク未タ幾何ナラスシテ璉春事件ノ突発ヲ見ルニ至リ遂ニ張使ハ日支共同

討伐ヲ承諾シ鮑督軍ニ嚴訓ヲ下シ且衛隊旅ヲ東支東沿線ニ増加シ日本軍ノ出動ニ策応スルノ氣勢ヲ示セリ然ルニ彼等ハ單ニ馬賊ノ討伐ニ其ノ日ヲ送リ遂ニ最後迄日本軍ノ希望スル行動ヲ採ル能ハサリシハ大ニ支那ノ誠意ヲ疑ハサルヲ得サルモ張作霖ノ意図ハ蓋シ日本ノ要求ニ応セントスルニアリシモノノ如ク察セラル而シテ彼ノ西間島方面ニ對スル討伐實行ノ如キハ僅ニ示威行軍ヲ承諾シタルニ止マレルコト亦彼ノ心中ヲ疑フノ一因トナルヘキモ是亦支那人ノ特性タル自己ノ体面ヲ重ンスルト反対派ニ口実ヲ与ヘサラン為ニ外ナラサルヘシ然ルニ日本軍一度璉春及間島方面ニ出動シ更ニ西間島方面ニ行軍ヲ実施スルヤ予期ノ如ク中央政府及反対派攻撃ノトナリ輿論ノ反対ニ遇ヒ加之当該地方政府憲ヨリハ日本軍ノ暴状ニ關シ虚実混淆且針小棒大ノ報告類々トシテ到著シ或ハ西間島方面ノ行軍部隊カ討伐ヲ実施セルノ報ヲ得テハ其ノ約ニ違ヘリト憤リ或ハ日本人馬賊中ニ混セルヲ知リテハ日本軍之ヲ操縱セリト疑ヒ或ハ江岸ニ於ケル支那軍警ノ馬賊討伐ニ際シ日本軍警之ニ共同セサルノミナラス却テ馬賊ヲ庇護セリト怒ル等問題ノ紛糾漸次大ナラント共ニ張作霖ノ神經ニ漸次昂奮スルニ至レルカ如シ

此等四團ノ攻撃ト各種交渉案件ノ類発トハ本問題ノ善後処置ニ於テ大ナル紛擾ヲ重ヌヘク或ハ一步ヲ誤ランカ遂ニ恢復スヘカラサルノ打撃ヲ蒙ルコトナシトセサルコトハ明敏ナル張作霖ノ夙ニ感知シタルカ如ク之カ対策ニ關シ苦慮煩悶ヲ重ネタルヤ想像ニ難カラス近時彼ノ態度ヲ観察スルトキハ自ラ其ノ間ノ消息ヲ窺フヲ得ヘキノミナラス彼ノ態度カ漸次変化シツツアルノ跡ヲ知ルニ足ルヘシ

璫春問題善後処置ニ關シ帝國政府ノ支那ニ致セル提案ハ奉天ニ於テモ赤塚總領事ヨリ張巡閱使ニ申込マントセシモ彼病ト称シテ会見ヲ拒絶セル事一兩次ニシテ遂ニ其ノ提議ヲ受クルヤ展墓ヲ名トシ飄然トシ遠西方面ニ去リテ帰ラサル事旬日ニ達セリ世上或ハ彼ノ家庭内ノ紛擾ヲ融和スル為ナリト説クモノアルモ此ノ如キ国交重大ノ時機ニ於テ当事者タル彼カ私事ヲ以テ任地ヲ去ルヲ甚タ無責任ナルヲ感セスンハ非ス吾人ヲ以テ見レハ其ノ真意ハ日本トノ交渉ヨリ暫ク離レ北京政府ノ態度ト輿論ノ趨向ヲ考察シニ対スル自己ノ方策ヲ熟考セントスルニアリシハ疑フノ余地ナシ張ハ巡閱使官制ノ未發布ヲ奇貨トシ東三省ノ外交権ヲモ其ノ手ニ収メンコトヲ企画シ中央政府実力ノ大ナラサルニ乘シ殆

ント之ヲ事實上ニ實現セシメ彼モ亦東三省ハ全然自己ノ權下ニアル事ヲ言明シアルニモ拘ラス近時璫春問題ニ対シテハ可成直接ノ交渉ヲ避ケ其ノ責任ヲ鮑督軍ニ嫁シ共同討伐ニ對スル支那側軍警配置ノ計画実行等ハ直接張巡閱使ニモ申込み督促數次ニ至ルモ遂ニ完全ナル回答ニ接セサルノミナラス却テ吉林督軍ヨリ直接中央政府ニ報告シ外交部ヲ經テ帝國公使ニ通牒シ来ル等張使ノ言動ト寔行トハ甚タ矛盾シアルヲ看取シ得ヘシ張ノ言明スル所ニ依レハ最近東三省ノ外交権ハ全然中央政府ノ手ニ收メソコトヲ電報シ来レルヲ以テ斬總理ニ対シ目下其ノ意嚮ヲ照会中ナリト云ヘルカ或ハ外交権ノ保留ニハ極力努ムヘキモ璫春問題ニ対スル交渉ハ主トシテ北京政府ニ讓リンニ非サルヤハ彼ノ近時ノ態度ニ微シテ疑ヒナキ能ハサルナリ

于冲漢帰來後語ル所ニ依レハ彼カ使命タル日支提携ノ目的ハ充分之ヲ達成シ得タルカ如ク張使モ亦大ニ満足ノ意ヲ表シ今後之ヲ事實上ニ現実セソコトヲ期シツツアリト云ヘハ将来彼カ親日主義ヲ開放的ニ促進スヘキカ果シテ然ラハ彼カ璫春問題ニ対シテモ誠心誠意日本ト懇談ヲ遂ケ以テ日支

提携ノ実ヲ現ハスヲ以テ策ノ得タルモノト為ササルヘカラス然ルニ彼レ此ノ擧ニ出ツル事ナク其ノ態度漸次前述ノ如ク変化シツツアルヲ疑ハシムモノハ何ソヤ必ス他ニ理由アリテ存スルモノナカルヘカラサルヘシ

小官之ヲ想察スルニ凡ソ左ノ數項ニアリト信ス

一、日本ニ厚意ヲ表シ其ノ有利ナル如ク事件ヲ解決セハ政府及反対派ノ攻撃ノ焦点トナリ自己ノ立場ヲ危フクスル事

一、日本ニ対シ強硬ナル態度ニ出テ自然日本ノ感情ヲ害シ于冲漢ノ渡日ニ依リテ得タル日本ノ諒解モ全然水泡

ニ帰スルノ虞アル事

一、日本軍ノ行動ニ關スル非難ノ報告ハ今ヤ積テ机上ニ堆シ之ニ關シテハ更ニ紛糾ヲ重ヌヘク若シ彼ノ讓歩ニ終ル

トキハ東三省ニ於ケル彼ノ立場ヲ困難ナラシムルコト以上ノ理由ニ依リ本交渉ノ責任ヲ全然中央政府ニ帰シ以テ

自己管下及輿論ノ攻撃ヲ避ケントスルニアルヤ明カナリトス從テ本交渉ニ対シテハ張作霖ハ可成關係セサランコトヲ期スヘキモ問題ノ発生地ハ東三省ナリ今ヤ東三省ニ强大ノ

権力ヲ振ヒ将来之ヲ根拠トシテ中原ニ覇ヲ争ハントスルノ

大正十年一月十九日 大庭朝鮮軍司令官ヨリ
間島方面出動中ノ軍隊原所屬復帰ニ關スル内
訳報告ノ件

大正十年一月十八日 田中陸軍大臣宛(電報)
電報 一月十八日午後 三時三十分發
六時三十六分著

陸軍大臣宛

朝特八

間島方面ニ出動中ナリシ部隊ハ間島派遣部隊及ヒ航空隊電信隊鳩通信班ヲ除ク外一月十五日迄ニ全部原所屬ニ復帰セリ

四一八 一月二十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

璋春事件ノ解決ニ閣シ外交總長トノ会談ニ付

報告ノ件

第六一號 (一月二十二日接受)

往電第二五号ニ閔シ一月十九日本使外交總長ニ会見シタル
処同總長ハ

(一)最初日本側ノ声明アリタル如ク未タ日本軍隊全部ノ撤退
ヲ終ラサル際ナルニ付本件交渉ノ時期早シト認メラルモ

本件至急解決ヲ要スル日本政府ノ立場ハ日本ノ国会及輿論等ニ顧ミ諒トセサルニアラサルモ支那政府ニ於テモ各省議会商業聯合會其ノ他團体ヨリ日本出兵自体ニ対シ甚シク反対アル以外日本軍ノ全部未タ撤退セサルニ先タチ本件交渉ニ入ルコトハ種々誤解ヲ來タシ結局解決ニ多大ノ困難ヲ來スヘク將又

(二)本件ニ關シテハ支那側ニ於テモ種々損害等アリ既ニ當該地方代表者ヨリ報告アリ交渉方申出テノ次第アルモ確實ナル実地ノ調査ヲ要スル為本部ヨリ調査員ヲ派遣シアリ未タ其ノ報告ニ接セサルニ付右報告ヲ俟ツノ要アルノミ

(三)本件条件ハ主トシテ項目ノ列記ノミニテ其ノ範囲、金額等漠然トシテ如何ナル程度ノ要求ナルヤ不明ナルニ付応答振ニ困難シ居レリ尚

四本件交渉ハ中央政府外張巡閱使鮑督軍等ノ地方官憲ニ談合アリタル次第ナルヤ何分本件ハ遠隔ナル地方事件ニテ中央政府ハ詳細ナル事情ニ通セサル為可成地方官憲トノ間ニモ交渉アラハ都合良ロシカラント存ス

ト述ヘタリ
依テ本使ハ(一)日本軍ノ大部分ハ已ニ撤退シ僅ニ竜井村外二三ヶ所ニ一大隊ヲ殘留スルノミナリ右ハ日本軍隊撤退後馬賊ノ襲撃不逞鮮人ノ報復行為ノ徵候今尚去ラス日本居留民等ニ於テ甚タシク不安ノ念ニ打タレ居リ現ニ最近五百名ヨリ成ル馬賊ト貴國軍隊トノ衝突アリタル等間島地方ノ情況全然平穏ニ帰セリト認メサル為メ未タ全部撤退ニ至ラサルノミ日本政府ニ於テ安心シ得ルノ時機ニ至ラハ必ス撤退スヘキハ一点疑ヲ容レサル次第付此点ハ日本政府ノ誠意ニ信賴セラレタシ支那各團体等ノ反対ハ全然本件ノ性質ヲ誤解シテ騒キ居ル次第ナルニ反シ日本輿論ハ貴國官憲ニ於

テ保護ヲ全フセラレサルニ依リ故ナクシテ領事館ノ焼却多数邦人ノ死傷ヲ來シタル此重大事件カ何時迄モ解決シ得ラレサルヲ不都合トスル次第ニ至極正当ナル要求ナリ從テ貴國輿論ノ激昂ハ誤解ニ基ク以上然ルヘク右誤解ヲ解キ且迅速ニ本件ノ解決方ニ尽力アリタシ

(二)貴部ニ於テ調査員ノ報告ナシトノコトナルモ今回提出ノ条件ハ至極公明正大ナル事柄ニシテ主義上速ニ之ニ承諾ヲ与ヘラルハ當然ノ事ニ属ス次ニ支那側損害トハ如何ナルコトナルヤ御提議ノ上ナラテハ確答シ難キモ万一支那損害等ニテ我方不当行為ニ基ク確証アルモノナラハ相當考慮ヲ要スヘキモ右調査報告云々ハ本件条件ヲ主義上応諾セラルルニ必要事項ニ非ラス

又

(三)本件条件ノ範囲、金額等ハ目下政府ニ於テ慎重調査審議中ナルニ付本件解決上當然ナル条項ヲ主義上貴國政府ノ承諾ヲ得置キ度キ次第ナリ

四本件解決交渉ハ未タ地方ニ於テ貴國地方政府ト話合ヒセルコトナシ尤モ我方条件ヲ主義上中央政府ニ於テ承諾セルニ於テハ之カ詳細ナル事項ニ付テハ夫々領事ト当該地方官憲

四一九 一月二十二日 在中国小幡公使宛(電報)
中国側ノ質疑ニ對スル回答並ビ二日本軍撤退

令ノ件

トノ交渉ニ讓ルコトトスルモ差支ナク旁々先ツ提出条項ヲ主義上承諾セラレ本件ヲ迅速ニ解決ヲ期シ度旨答ヘタリ然ルニ同總長ハ本件ヲ迅速ニ解決スルコトハ素ヨリ希望スル所ナルモ何分日本軍ノ全部撤退セサルニ先タチ解決案ノ交渉ニ入ルコトノ困難ナルヲ繰返シ容易ニ承諾スルニ至ラス且ツ円満ナル解決ヲ圖ル見地ヨリ日本側要求ハ可成範囲小ニシテ金額大ナラサルコトヲ希望スト切言シ居タリ本件ハ引続キ折角交渉ヲ行フヘキモ不取敢電報ス免ニ角殘留二大隊撤退ニアラサレハ目鼻附キ兼ヌヘキカト存セラル尚總長ノ口振りニ依レハ一応奉天、吉林督軍ヘモ条件提出ヲ希望シ居ルモノノ如シ場合ニ依リ右様取計可然カト思料ス

奉天、吉林、間島ヘ転電セリ

貴電第一五号末段ニ閲シ

(3)、ノ(句)直屬長官トハ具体的ニ何人ヲ指スヤトノ外交總長ノ質問ニ對シテハ往電第七二六号〔〕ノ(3)(イ)及(ロ)ノ説明ニテ明ナルカ如ク当日暴行ヲ勵キタル支那兵又ハ巡警ニ對シ直接監督ノ職責ヲ有スル上官ノ意ニシテ右暴行者ノ調査ニシテ判明スルニ至ラハ其直屬長官ノ何人ナルヤハ支那ノ官制ニ依リ自ラ明トナルヘキ筋合ナリ

尚貴官自ラ外交總長ト本件ノ交渉ヲ開始セラレムトスルニ當リ彼ニ於テ我殘留部隊及警察官派出問題ノ未解決ヲ理由

トシテ琿春事件自体ノ交渉開始ニ應セサルカ如キ態度ヲ示スニ於テハ貴官ハ帝国軍隊ノ出動竝ニ警察官派出ノ問題カ

琿春事件勃発後ニ於ケル間島地方一帯ノ情勢ニ應スル為メ已ムヲ得スシテ執リタル事後ノ処分ニ係リ之カ解決ハ専ラ

該地方ニ於ケル現在及此後ノ状況並ニ支那側ノ不逞團ニ対スル討伐実行及治安維持ノ実績如何ニ依ルヘキ性質ノモノタルコトヲ指摘シ今回提出ノ琿春事件自体ニ對スル帝国政府ノ要求ハ事件勃発ト共ニ直ニ之カ交渉ヲ開始シ得ヘキモノナルモ荏苒今日ニ及ヒタル所以ハ調査ニ多大ノ日子ヲ要シタルニ因ルモノニテ帝国政府トシテハ時期聊カ遲レタリ

ト感シ居ル位ナルニ外交總長ニ於テハ事後ノ問題ニシテ而カモ専ラ前記ノ如キ事由ニ依リテ決セラルヘキ我軍隊ノ残留及警察官派出問題ノ解決ヲ以テ本件交渉開始ノ先決問題ナルカ如ク主張セラルハ全然論理ヲ成サストノ趣旨ヲ以テ之ヲ反駁セラレ度ク尚ホ本件交渉ノ此上遲延スルコトハ頗ル面白カラザル事柄ニ付迅速進捗方努メラレタシ右奉天ニ転電シ吉林、間島へ転電セシメラレタシ

四二〇 一月二十八日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中國側ハ日本軍撤退ヲ固執スル模様ナル旨報

告ノ件

第九五号 （一月二十九日接受）

貴電第三八号ニ閲シ一月二十六日外交總長ト会见右御来示ノ趣旨ヲ布衍説明シ速ニ琿春事件自体ノ解決商議進行ニ同意アリタシト述べタル處ニシテシ総長ヨリモ種々弁スル所アリタルカ要スルニ支那側ノ看ル所ヲ以テスレバ該事件自体ノ解決法ト撤兵問題ノ関係トハ直接連結シ居リ截然二個ノ事柄トハ看做シ難ク例ヘバ日本要求ノ一ナル道尹ノ懲戒ノ如キ同官ハ目下種々ノ交渉ニ当リ居レルヲ以テ之ニ处分

ヲ加ヘ或ハ他ニ転ゼシムル如キハ實際非常ナル不便ヲ來スヘク又軍隊長官ノ処罰等ニ付テモ中央政府トシテ果シテ其ノ部隊兵士等ニ日本側ノ云ヘル如キ不法行為アリタリヤ否ヤ事實ヲ突止メタル上ナラデハ主義トシテモ日本側要求ヲ承認スルヲ得ズ尤該調査ニ付テハ既ニ人ヲ派シアリ二三週間内ニハ何等カ復命アルベキニ付日本側ニ於テ暫ク猶予アリタク而シテ撤兵問題ニ付テハ張巡閱使鮑督軍等ヨリ屢々申出アリ中央政府トシテモ極メテ困難ナル立場ニアリ傍々本問題ノ始末ヲ付クルコトハ此ノ際最重要ナルニ付日本側ニ於テ全部ノ撤退実行相成ル様同意セラレタシト云フニアリ依ソテ本使ハ間島癸閣下宛電報第一六号内容ヲ適宜摘要シテ間島方面ニ於ケル其ノ後ノ事態極メテ不安定ニシテ殊ニ不逞團ニ對スル地方官憲及軍隊ノ措置ニ至リテハ甚ダ覚束ナキ状態ニアリト認ムル外ナキ事ヲ指摘シ日本軍隊ハ安ンジテ之ヲ撤退シ得ルノ時期ニ至ラザル旨説示シ置キタルカ之ニ對シ總長ハ敢テ此等ノ報道及觀察ヲ否認セントスルニハアラザルモ間島地方日本官民ハ今回ノ如キ非常ナル出来事ニ遭ヒタル為神經著シク過敏トナリ或ハ實際以上ニ憂慮スルノ傾キ多少之レアルニアラズヤト思ハル尤モ本使ノ

述べタル状況ハ巡閱使及督軍ヘ報告シ十分注意セシムベシト答ヘタリ

本件交渉ニ付支那側ニ於テハ兎ニ角日本側ノ全部ノ軍隊ヲ撤退セシメタル上琿春事件自体ノ商議ニ入ルコトニ腹ヲ極メ居ルモノト認メラレ且ツ部内ノ関係等之レ有ルベキハ勿論ナルモ本使ノ見ル所ニテハ本件ハ理屈ヨリモ寧ロ感情ニ捕ハレ居ルガ如クニ考フルヲ以テ我軍隊全部ノ撤退ヲ見ザル限り如何ニ理屈ヲ以テ争フモ談判ノ歩ヲ進ムルコト頗ル困難ナリ少クモ調査委員ノ間島ヨリ帰リ来ル迄ハ先方ニ於テ必ズ同様ノ言ヲ繰返シ応酬スルニ過ギザルベシト察ス

四二一 一月二十九日 朝鮮軍參謀長ヨリ

第十九師團長斎藤大佐ヨリ間島ノ實情聽取ノ件

山梨陸軍次官宛（電報）

大正十年一月三十一日

陸軍次官宛

朝鮮軍參謀長

本日第十九師團長斎藤大佐ヲ召致シ間島ノ實情ヲ聽取セラル即左ノ如シ

朝参六六

一一 間島撤兵ニ閑スル件 四二二

五六六

一、間島ニ於ケル支那当局ハ表面其ノ上司ニ対シ速ニ日本軍ノ撤退ヲ要求シアルニ係ラス裏面ニ於テハ斎藤顧問ニ打明クル処ニ依レハ支那軍隊巡警等ノ現状ハ治安維持ノ任ニ堪ヘサル為日本軍ノ駐兵期間ヲ利用シ地方軍警ノ編成秩序整頓等将来ノ治安維持ノ準備ヲ完成シ度希望ヲ有スルヲ以テ寧ロ内心ハ却シテ若干期間ノ駐兵ヲ望ミ居レリ

二、日本軍撤兵スレハ支那軍隊ヲ更ニ間島ニ増兵スルノ必要アリ之カ為吉林軍ニ於テハ目下兵力ノ余裕ナキヲ以テ新ニ編成スルカ若クハ奉天軍ヲ送ラサルヘカラス共ニ若干ノ時日ヲ要ス

三、間島總領事ハ外務省ノ計画ニ依リ領事館警察ノ拡張ヲ完成シ其配置及業務ノ実施等諸事整頓ヲ終リタル後ニ撤兵スルノ必要ヲ認メ居レリ其時期ハ四月中トノコトナリ以上ノ情況ナルヲ以テ我撤兵時機ハ概不領事館警察ノ拡張計画完成シタル後ヲ然ル可シト判断セラル就チハ領事ノ意見ノ如ク外務省カ我撤兵時期ヲ領事館警察完成後トシテ要求アリタル場合ニハ陸軍ニ於テハ之ニ同意セラルヘキヤ或ハ領事館警察完成時期ノ遲キヲ以テ間島ノ現状

公使、奉天、吉林ニ電報セリ

四二三 二月七日 在奉天赤冢總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

間島方面ヨリ日本軍撤退後ノ善後策ニ付張巡

閲使ト打合ノ結果報告ノ件

第五六号 (二月七日接受)

春事件ノ解決ヲ遲延セシムルハ甚ダ謂ハレ無キニ付右決定ノ次第ヲ北京ニ申送リ璋春事件ノ解決ヲ急グ様建言サ

レタシト申入置キタリ

公使、間島ニ電報セリ

四二四 二月十三日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

間島殘留二個大隊三月迄ニ引揚ニ閑シ事實問合ノ件

第一三〇号 (二月十三日接受)

奉天發責大臣宛第五六号ニ依レバ間島方面殘留二個大隊ハ經費ノ都合上三月迄ニ引揚ゲザルベカラザルコトナリ居テ趣ナリトノコトナルガ右ハ事実ナリヤ本使心得迄ニ電報ヲ請フ

一、張巡閱使ハ一個月以内ニ三營ノ兵ヲ增派スル事ヲ約シ尚指揮官トシテ第二十九師長吳俊陞ヲ第二十七師長張作相ヲ間島ニ派遣スル筈ナリト言明シタリ

一、大庭司令官ハ然ラバ右実現ノ機ヲ以テ我撤兵ノ時期ト定ムベク尚撤兵後連絡將校十名ヲ間島ニ残シ置ク筈ナリト告ゲタルニ張ハ之ニ同意シタリ

一、本官ハ張ニ対シ斯ク撤兵ノ事具体的ニ決定シ我真意明カトナリタルニ依リ北京外交部ニ於テ我撤兵ヲ云為シ輝

一一 間島撤兵ニ閑スル件 四二三 四二四 四二五

如何ニ拘ラス三月中旬以降ハ絶対ニ駐兵セサル方針ナリヤ御意図至急承リタシ右命ニ依リ

四二二 二月一日 在間島總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

間島撤兵後ノ治安維持方ニ閑シ意見上申ノ件

第四六号 (二月十日接受)

第四四号來電ニ依レバ間島方面殘留ノ二個大隊モ三月限り全部撤退ノ筈ナル趣ノ處一部駐兵ノ當分必要ナル事情ハ再次申請ニ及ビ置キタル通リナルガ大局上絶対已ムヲ得ザルモノトスレバ撤兵前ニ支那側ヨリ絶対安全ノ保証ヲ取り再び不逞行動アリタル場合ハ何時ニテモ出兵スペキコトヲ声明シ置キ(承認セシムルコトハ不可能ナルベキニ付)且ツ之ヲ一般ニ知ラシメ置クニ於テハ間島地方支那文武官吏軍警等ハ日本ノ出兵ヲ慮ル結果已ムヲ得ズ不逞團ノ嚴重取締ヲ余儀ナクセラレ又不逞鮮人側ニ於テモ武力行動ヲナスニ

於テハ又々日本ノ出兵討伐ヲ受クベキ不得策ヲ覺リ結局間島方面ニ於ケル活動ヲ思ヒ切ルニ至ルヘキ効果アリト思考セラル、又耶蘇教宣教師等ニ於テモ懸念スル處ヲ生ジ独立運動ニ對スル煽動的行動ヲ慎ムニ至ルベシト思ハル

貴電第一三〇号ニ閑シ

第八四号

四二五 二月十七日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

間島地方殘留二個大隊ノ引揚時期ニ閑シ回電

五六七

一一 間島撤兵ニ閣スル件 四二六

五六八

間島地方殘留ノ二ヶ大隊ハ同地方ニ於ケル我警察力ノ充実

ヲ俟テ全部之ヲ撤退スルコトニ決定シ居リタル次第ハ御承

知ノ通リナル處本省ニ於テハ朝鮮總督府ト協議ノ上間島地

方ノ警察組織ヲ拡張シテ警察官總人員ヲ約九百名トシ主要

ナル地方十四ヶ所ニ新タニ警察派出所ヲ設置スルノ案ヲ立

テ最近ノ閣議ニ於テ之力承認ヲ求メタル処經費等ノ關係上

右拡張案ハ閣議ノ容ルル處トナラス結局ト張作霖カ大庭司

令官ニ約束セル支那軍隊ノ增派實行ヲ見ル迄現在ノ二ヶ大

隊ヲ駐留シト我軍隊引揚後支那側ノ取締不充分ニシテ危險

アリト認メタルトキハ臨機ノ处置ヲ執ルコトニ決定シタル

カ二ヶ大隊撤退ノ時期ハ右ノ如ク支那兵備ノ充実ヲ前提ト

スルモノナルニ付キ果シテ三月中ニ之ヲ実行スルコトトナ

ルヤ將又四月以後トナルヤハ今日ノ處全ク未定ナル次第ナ

リ尚警察組織ノ件ニ付テハ前記ノ如キ大拡張ハ差向キ之ヲ

中止スルノ已ムヲ得サルニ至リタルモ治安ニ付此ノ際ハ一

応支那側ニ責ヲ負ハシメ來年度ニ於テ約二百名増員ニテ暫

時形勢ヲ觀ルコトニ決シ客年未不敢新設シタル十ヶ所ノ

派出所ハ飽迄之ヲ存置シタキ所存ナリ

右御含迄

四二七 三月十一日 在奉天赤塚總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

璉春事件善後措置ニ付テハ張作霖ト直接交渉

ヲ得策トスル旨稟申ノ件

第八七号

(三月十二日接受)

在支公使發本官宛電報第二四号

外務大臣ヘ転電アリタシ 第二〇一號

往電第九五号ニ關シ三月九日定例接見日ニテ本使外交總長往訪ノ際外交部派遣員ノ璉春事件調査復命ノ有無ヲ尋ねタル處同總長ハ派遣員二名中一名ハ家族不幸ノ為メ調査半ニシテ帰京シ他ハ目下引続キ調査中ナルヲ答へ尚最近張巡閱使ヨリノ報告ニ依レハ璉春事件善後措置問題ニ閣シ赤塚總領事ヨリ同巡閱使ニ相談アリタル趣ナルカ本件ハ地理的事情等ヨリ見ルモ寧ロ奉天ニ於テ之ヲ商議セシメ最後ニ当地ニ於テ承認スルノ手續ニ出ルコト實際上便利ナラント思考スト述ヘタルニ付本使ハ中央ハ中央トシテ折衝スヘキ幾多ノ案件モアルコトナレハ地方問題ハ成ルヘク地方ニ於テ處理スルコト望マシキ次第ナルカ本件ニ閣シ張巡閱使ト奉天

總領事トノ間ニ如何ナル程度迄ノ話合アリタルヤ詳細承知

一一 間島撤兵ニ閣スル件 四二七

奉天ニ転電シ吉林及間島ニ転電セシメラレタシ
四二六 二月十九日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中國側ヨリ日本警官隊ノ撤退要求申出ニ付報

告ノ件

第一四八号

(二月二十日接受)

往電第二三号第八四号ニ閣シ

外交總長ヨリ更ニ二月十六日附公文ヲ以テ右両度ノ照会ニ對シ未ダ回答ニ接セサル處其ノ後吉林督軍來電ニ依レバ延吉県内二道溝、集場及銅佛寺和龍縣内ヶツシンシャ璉春管内黒頂子ノ十八ドウシュウ並頭道溝各地ニ各五六名乃至十數名ノ日本警官分駐シ居リ何レモ久駐ノ計劃ヲナシ居ル趣ノ処右延属各地ニハ已ニ多數ノ支那軍隊配置セラレ充分地方ノ秩序ヲ維持シ得可ク從テ日本領事館及在留民ニ再ヒ危險ヲ及ホス事決シテナカル可ク此ノ際日本軍警ノ留存スル必要更ニ無キガ故ニ之レ等軍警ヲ迅速完全ニ撤退セラレ度ク何分ノ回答アリタシトノ趣旨ヲ申越セリ

在奉天、吉林、間島ヘ転電セリ

尚当日外交總長ハ斎藤大佐ヨリ此程外交次長ニ對シ間島地方ノ狀況ニ閣シ報告アリタル處其内同大佐ハ廣漢ナル間島ニ亘リ現在ノ如キ少數軍隊ノ配置ニテハ到底完全ナル治安維持ヲ望ミ難シト述ベラレタルニ付其旨張巡閱使ニモ移牒シ最近寧古塔ヨリ三大隊ヲ間島ニ增派スル事トナレリト語レリ右序ヲ以テ申添フ

四二八 三月十二日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張巡閱使ト琿春事件解決方法ヲ議シタルコト

ナキ旨報告ノ件

第八八号 (三月十二日接受)

在支公使發外務大臣宛電報第二一〇一号ニ閲シ外交總長ハ琿春事件善後措置問題ニ閲シ本官ヨリ張巡閱使ニ相談シタル

趣同巡閱使ヨリ報告アリタル旨小幡公使ニ談話セルガ本件ニ閲シ本官ガ張巡閱使ニ相談セルハ單ニ客年拙電第四二五号報告ノ通ニテ其他ハ警察分署若クハ派出所ノ設置方ニ閑シ少ナクモ張ノ默認ヲ得ントシテ再三懇談シタルニ止リ特ニ本件善後措置ヲ商議シタル事無シ右外交總長ノ談話ハ小幡公使推察ノ通り自ラ本件解決ノ衝ニ當ル事ヲ避ケタルモノト見テ誤無カルベシ但シ本件交渉ヲ地方的ニ解決セントセバ吉林ニ於テ行フ事好都合ナルベシト思考ス

在支公使及吉林總領事ヘ転電セリ

四二九 三月十七日 在吉林森田總領事ヨリ
内田外務大臣宛

間島問題ニ閲スル斎藤吉林督軍顧問ノ演説ニ

付報告ノ件 機密公第一九号 (三月二十八日接受)

大正十年三月十七日

在吉林 総領事 森田 寛藏(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

吉林督軍顧問斎藤大佐ノ演説ニ閲スル件

旧暦八月中旬督軍及省長ヨリ間島方面ノ状況視察ヲ命セラレタル顧問斎藤大佐ハ先般帰吉シ去ル十日陸軍記念日当日当地日本人俱樂部ニ於テ一場ノ演説ヲ試ミ先ツ間島方面ノ地勢ヨリ説キ起シ不逞鮮人独立運動ノ真相日支両国ノ協同出兵動作等ニ言及シ終リニ間島問題ノ円満解決方法トシテハ日支條約ノ改正ニアル旨ヲ述べテ降壇シタルガ其ノ談話中ノ一齣ニ於テ我ガ対支政策ノ遂行上外務省側ト陸軍省側トノ間に意見ノ一致ヲ欠キ偶々陸軍側ノ自由行動力阻礙セラレテ相手ニ機先ヲ制セラルコトアルハ敢テ我田引水ノ説ニアラズ今回ノ間島事件勃発ニ際シ不逞輩力國境ヲ越ヘテ我ガ領土内ニ侵入シ來リタル際我ガ軍ハ之ヲ破り猛烈ナ

ル逆襲戰ヲ試ミントセルコトアリシガ外務省側ニ於テハ外交上ノ見地ヨリ躊躇ノ色ヲ示シ為メニ我ガ陸軍側ノ行動ハ

牽制セラレタルガ万事此ノ筆法ヲ以テシテハ如何ニ我ガ在外居留民ノ生命財産ヲ保護セント欲スルモ能ハズ又朝鮮軍

司令官大庭大將ガ戰地巡視ノ使命ヲ帶ビテ琿春ヲ通過シタル

ルニ際シ琿春領事館ニ於テハ危險已ニ目睫ノ間ニ迫リタルニモ拘ハラズ其ノ情況ヲ司令官ニ語ラズ又慶源方面ニ駐屯中ナリシ我軍トノ連絡ヲ欠キ時局ニ閲シ何等通報ノ責ヲ果

サズ為メニ今回ノ大不祥事ヲ惹起シタルハ其ノ罪ヲ我ガ外務省出先官吏ニ帰セザラント欲スルモ能ハズ実ニ帝国ノ為メ遺憾ニ堪ヘサル次第ナリ云々ト述べタリ

右ハ同大佐一己ノ勝手ノ意見ナリト信スルモ何等御参考迄ニ及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使 奉天總領事

間島總領事代理 琿春副領事

四三〇 三月二十一日 在奉天赤塚總領事宛(電報)

琿春事件善後措置ニ閲シ地方官憲トノ交渉望

マシキモ中央政府トノ基本的合意必要ナル旨

一一 間島撤兵ニ閲スル件 四三〇

一 間島撤兵ニ関スル件 四三一 四三二

五七二

条項中「(1)死傷者ニ対スル弔慰金及慰藉金及(2)財産上ノ損害賠償ハ中央政府ニ於テ先ツ主義トシテ之ヲ承認シ其細目金額等ハ奉天ニ於テ商議決定セシムルコト」(3)責任者ノ处罚ニ付テモ取調ノ上相当ノ処置ヲ執ルコトノ原則ヲ中央政府ニ於テ承認シ之カ細目ノ交渉ヲ奉天ニ移スコト(3)奉天ニ於テ彼我双方ノ間ニ右各項ニ関スル商議決定シタルトキハ中央政府ハ直ニ之ニ承認ヲ与ヘ且ツ政府ニ於テモ相当陳謝ノ意ヲ表スルコトヲ應諾セシメタル上本件交渉ヲ奉天ニ移スコト致度キニ付キ右ニ御承知ノ上可然御措置相成度シ尚赤塚總領事ノ意見トシテ本件ヲ吉林ニ移シタントノコトナルモ既ニ鮑督軍交迭後ノコトニモアリ且當該地方モ事實上張巡閱使ノ勢力下ニ在ル次第ナルニ付キ貴見ノ通り矢張奉天ニテ交渉スルコト致度キ意向ナルニ付キ右様御承知アリタシ

右吉林ヘ転電アリタシ

四三一 三月二十六日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

間島撤兵ニ関スル參謀總長發朝鮮軍司令官宛

電訓内容通報ノ件

件善後措置交渉モ愈々撤兵実行ト共ニ自然展開ノ機会ヲ得ヘク本使ニ於テモ貴電第一四五号御回訓ノ趣旨ヲ体シ此際適當ノ機会ニ於テ本件交渉ヲ再開スル所存ナル処予テ外交總長ニ於テハ我方ノ提出スヘキ損害賠償要求額ヲ懸念シ且之ニ對シ我出兵ニ依ル支那損害額ノ反対要求ヲ提起セントスルノ底意アルコトハ既ニ往電第二五号ニテ御承知ノ通ナリ就テハ我方ノ要求スヘキ損害賠償ノ種類及金額等不明ノ儘単ニ主義上ノ同意ヲ取付クルコトハ實際問題トシテ甚タ困難ナル次第ニ事件発生以來相當日子ヲ経過シ之等ノ点モ御調査済ノコトト存セラルニ付至急一件調査書類御送付アリタシ

在奉天總領事ヘ郵送セリ

四三三 三月三十一日 在オタワ清水總領事ヨリ
内田外務大臣宛

水町大佐ノ覺書ニ付テ伝道本部トノ往復文書

送付ノ件

附屬書一 三月十四日付清水總領事ヨリ伝道本部宛書翰

水町大佐ノ覺書ニ付テ伝道本部トノ往復文書

送付ノ件

件善後措置交渉モ愈々撤兵実行ト共ニ自然展開ノ機会ヲ得ヘク本使ニ於テモ貴電第一四五号御回訓ノ趣旨ヲ体シ此際適當ノ機会ニ於テ本件交渉ヲ再開スル所存ナル処予テ外交總長ニ於テハ我方ノ提出スヘキ損害賠償要求額ヲ懸念シ且之ニ對シ我出兵ニ依ル支那損害額ノ反対要求ヲ提起セントスルノ底意アルコトハ既ニ往電第二五号ニテ御承知ノ通ナリ就テハ我方ノ要求スヘキ損害賠償ノ種類及金額等不明ノ儘単ニ主義上ノ同意ヲ取付クルコトハ實際問題トシテ甚タ困難ナル次第ニ事件発生以來相當日子ヲ経過シ之等ノ点モ御調査済ノコトト存セラルニ付至急一件調査書類御送付アリタシ

在奉天總領事ヘ郵送セリ

第一六七号

間島撤兵ニ関シ本月廿五日參謀總長ヨリ朝鮮軍司令官宛左ノ通り電訓シタル旨通報アリタリ御含迄

一、朝鮮軍司令官ハ現ニ琿春及間島地方ニ在ル部隊ヲ逐次朝鮮内ニ帰還セシムルコト

二、撤退ノ時期方法等ハ駐兵ノ趣旨ニ鑑ミ支那軍隊ノ増加並帝國警察機關ノ増置等ニ伴ヒ軍司令官ニ於テ之ヲ決定スルコト

尚之カ為特ニ關係帝國官憲ト連絡スルヲ要スルコト

三、撤退ニ際シテハ特ニ帝國軍隊ノ態度ヲ公明正大ニシ以テ支那側及琿春、間島在住ノ外国人ヲシテ懷疑ノ余地ナカラシムル様注意スルヲ要スルコト

右奉天ヘ転電シ吉林及間島並各分館ヘ転電セシメラレタシ

貴電第一六七号ニ關シ從來我方駐兵ノ為メ停頓セル琿春事

理春事件善後措置交渉ニ關連シ我方要求ノ損害賠償額等回報方裏請ノ件

四三二 三月三十一日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

第二五九号

（五月九日接受）

大正十年三月三十一日

在オタワ

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

總領事 清水 精三郎（印）

水町大佐ノ「ステートメント」及間島出動帝國軍隊ノ行動等ニ關スル件

本件ニ關シ本年二月八日附亞三機密送第一号貴信ヲ以テ御訓令ノ趣敬承依テ御訓令ニ基キ在トロント市外國傳道本部ヘ別紙第一号ノ通文通シ之ニ貴電第四号ヲ以テ御示來示相成リタル獐岩洞事件ノ訳文（此事ニ就テハ後段詳記スル所アルヘシ）ヲ添へ送付致置候處此程ニ至リ第二号写ノ通リ回答ニ接シ申候

第二号写第二項ニ明白ナル通常方面殊ニ基督教伝道者ニ於テハ帝國陸軍側ト文憲トノ間ニ明割ナル區別ヲ立テ基督教

ニ対シ悪意ヲ表シ交渉上最モ困難ヲ感スルハ前者ナリト為シ後者ニ対シテハ多大ノ好意ヲ表シ専ラ朝鮮ノ開発ヲ方針トスル現内閣及斎藤總督等ノ前途ヲ祝福致居ルノ意ヲ開示致候

伝道本部ニ於テハ獐岩洞事件ノ我公報ハ陸軍側ノ報告ニ基クモノト推定シ我方ニ於テ右公報ヲ正確ナリト信スルト同様彼方ニ於テハ宣教師ノ報告ヲ正確ナリト信スヘキ特權アルコトヲ認メラレタシト称シ彼方ニ於テハ我陸軍ヨリ出テタル報告ハ深ク信ヲ措クニ足ラストノ意ヲ諷刺致居候

茲ニ於テ貴電第三号末段御来示獐岩洞事件公報發表方云々ニ閑シ申述度貴電接受ノ當時御来示ノ公報内容ヲ「エス、エツチ、マーテイン」ノ報告ト読ミ比フルニ雲泥ノ相違有之突然之ヲ新聞紙上ニ公表センカ前來ノ経験ニ徵スルニ伝道本部側ハ一時ニ起ツテ反抗的發表ヲ重ヌヘキハ毫モ疑ヲ容ルルノ余地ナク殊ニ其頃ハ間島派遣宣教師長「ドクトル、フート」モ帰國中ニテ間島事件ノ目撃者トシテ筆鋒ヲ振フコト勿論ノ義ト被存（註、朝鮮政府ニ反抗スル暴民等ノ行動ニ閑シ何等関与セサル鮮民ノ男女子供等ニ対シ日本軍隊ノ加ヘタル慘虐ニ就キ宣教師等ハ十二分ノ証拠ヲ有セリ

ト今以テ主張シ居ルコト第二号写第八項ニ明記ノ通ナリ）若シ此ノ形勢ヲ誘致スルトキハ客年十一、二月頃間島事件ノ報道ニテ一時新聞紙上ヲ賑ハセタル頃ヨリ既ニ二ヶ月内外ヲ経テ世人ノ記憶モ漸ク薄ラキ來レル際ニ当リ死灰再燃ノ状ヲ呈シ我方ノ不利甚シカルヘキヲ確信シ貴電第三号前段御来示ノ委細郵報ノ接到ヲ俟ツヘキコトニ決心シ前記機密第一号貴信接受ノ上獐岩洞事件公報ノ訳文ヲ伝道本部ニ送リタル次第ナルニ先方ノ氣勢前記ノ如ク強硬ニ出テタルヲ見レハ若其當時突然公表シタリトスレハ本官ノ憂慮シタルカ如キ事態ヲ見タルヘキハ疑フヘカラサル義ト被存候依テ此機会ニ於テ右ノ事情及具報候

又本官ノ参考迄ニ御送付被下候水町大佐ノ「ステートメント」写請求ノ点ニ就テハ第一号写中記載ノ通本官ノ責任ヲ以テ謝絶ノ形式ヲ取リタルニ第一号写中記述ノ通り先方ニテモ快ク納得致候乍去右「ステートメント」ニ対スル伝道本部ノ激昂ハ今以テ毫モ減退ノ模様無之別紙第一号写中「拙者ハ水町大佐書簡ニ閑シ日本政府ノ執ラルヘキ措置ヲ熱心ニ待受ケツツアリ」と云ヒ「我宣教師等カ鮮人ヲ援助（政治運動ニ閑スル意ヲ含ムコト勿論ナリ）セリト誣ヒ無実ノ

記述ヲナシタル点ニ対シ日本政府ハ明瞭ノ陳述アランコトヲ吾人ハ期待ス」ト云フカ如キ先方ノ態度明白ニ觀取セラレ候但シ水町大佐書簡中不逞鮮人ニ閑シ宣教師等カ鮮人ヲ援助セリト無実ノ誣告ヲナセリヤ否ヤハ疑問ノ存スル処ニ有之右書簡写ヲ熟読スルニ表面上右様ノ字句ハ見当ラサレトモ第二節ノ第二目及第三目中此種ノ文書トシテハ其措辞用語等甚タ妥當ヲ欠キ其裏面ニ活躍シ居ル筆者ノ真意如何ヲ觀取スルニ難カラサルノ感ヲ起サシムルヲ免レサルコトハ否定シ難キ義ト被存候

次ニ第一号写中「水町大佐書簡写ノ申受ハ必要ナラサルモ新聞紙ノ報道ニ依レハ同大佐ハ帰朝後一層盛ニ誣告ヲ継続シタル趣ナルニ就テハ日本政府カ該書簡ノ内容ニ閑シ批判ヲ加ヘラルコトヲ希望ス云々」ト云ヘル点ニ対シテハ該通告ニ就テハ我政府ハ何等閑知スル処ナク畢竟右ハ同大佐一個ノ私見ニ過キサル旨曩ニ之ヲ公表セラレタルコトハ兼テ本官ヨリ伝道本部ニモ通牒ノ通ナレハ此上更ニ右ノ内容ニ閑シ政府ハ批判ヲ加フルカ如キコトナカルヘシト思惟スル旨別紙第三号写ノ通文通致置候

右ノ外伝道本部ニ於テ本官ニ会見ノ件ニ閑シテハ貴電第三

（附属書一）

第一号

三月十四日付清水總領事ヨリ伝道本部宛書翰写

二、同月二十六日附伝道本部発本官宛書簡写
三、同月三十日附本官発伝道本部宛書簡写

右及稟報候 敬具
事件公報訳文
一、本年三月十六日附本官発伝道本部宛書簡写附獐岩洞
号中御来示ノ次第モ有之候処来ル四月十一日ヨリ十五日マ
デ総会開会ノ予定ニテ其際本官ノ出張ヲ請ヒ来リ候ニ付右ニ応シ会見ノ上篤ト先方ノ主張及希望等ヲ聽取り且我方ノ立場ヲ弁明シ懇談ヲ試ムヘキ積リニ有之候間其顛末ハ追テ具報可致候

本信添付書類左ノ通り

二、同月二十六日附伝道本部発本官宛書簡写
三、同月三十日附本官発伝道本部宛書簡写

Rev. A. E. Armstrong,

Ass't. Secretary,

Board of Foreign Missions,

Presbyterian Church in Canada,

Toronto.

Dear Sir,

With reference to your letter of the 4th December, 1920, concerning the Kanto affairs and to mine of the 6th December, 1920, I have the pleasure of informing you that I have received a communication from my Government.

(1) As regards the assurances which you asked me to convey to my Government, as stated in your letter referred to, I am instructed to express to you a great satisfaction felt by my Government at the receipt of those assurances. En passant, I may state that my Government have received numerous reports from various sources on the movements of missionaries in Kanto, in connection with Korean affairs, but my Government do not believe so far that those missionaries have been directly implicated in the political movements or traitorous acts of Koreans against Japan, and it is earnestly hoped that the information in their hands apparently or indirectly indicating otherwise will prove to be ill-founded.

(2) A copy of the letter addressed to the Canadian Missionary at Yongjung by the Japan Military

three groups of incidents covered in the statements by Dr. Foote, dated the 30th October last; by ditto, dated the 3rd November last; and by Miss Emma M. Palethorpe (undated), respectively, inquiries were still going on at the time of writing the letter of reply to me, namely on the 8th February last. And it is expected that when the inquiries completed the results will be communicated to me.

In regard to those covered in the statement by Dr. S. H. Martin, M. B., C. M., under the heading of "The Norapawie Massacre", I received a copy of an authentic statement of the incidents, a copy of which is herewith enclosed. Please compare the one with the other. What differences in substance! I am waiting for the arrival of authentic statements of other cases with a great interest.

(4) Notwithstanding these remarks, I am at one with you in the earnest desire of that co-operation between my Government and your Missionaries in the Orient with a view to the advancement of the spiritual, moral and physical conditions of the Korean people, who are our brethren, and to the pro-

Officer, a copy of which you desired me to obtain, reached me for my private information. After my perusal of the copy and a careful consideration in the matter my opinion is this, that in the first place, you should have, no doubt, received a copy of the letter in question from Dr. Foote, to whom it was addressed (and if not, it would be easy for you to get it, now that Dr. Foote is in this country), and secondly, in view of the fact (as I informed you in my letter of the 16th December last) that the letter in question was written solely on Colonel Midzumachi's personal responsibility, without any authorization from my Government, I feel that it is not of the nature to be dealt with as a part of an official communication, such as that passing between you and me. I hope and trust, therefore, that you would not press me for obtaining it from me.

(3) In addition, I wish to make a few remarks concerning the four statements, copies of which you were good enough to send me under your covering letter of the 14th December last. With regard to the

motion of peace and goodwill, and would highly appreciate your endeavours towards this direction.

Faithfully yours,

(Signed) S. Shimizu.

Consul General.

P. S. Should you still think that I should meet your friends in your Board to promote that co-operation referred to I may visit you one of these days when convenient to both of us.

Statement of Sho-gando (Norapawie) Incidents, by the Japanese Government.

(1) On the 29th October, 1920, information received by the Commanding Officer of the Garrison at Riuseson(Yongjung) to the effect that at Shogando (or Norapawie) several hundreds of rebels assembled and were attempting to attack the Communications Depot at Nanyohyo (about 19 miles south of Riuseson). Seventy soldiers commanded by a Captain, accompanied by some Military and civil police-officers, were despatched to Shogando to put the rebels down. This Company arrived early in the morning on the 30th October at the destination

and occupied the locality. The Military and civil police-officers sent into the village and searched houses.

By this time about fifty per cent. of the rebels armed themselves and started to run away in a column line. Firing was at once opened on them. There were a number of casualties but the remainders got away. The police-officers continued to search houses, in spite of strong opposition of the rebels still remaining and found a large number of grenades, Taikyoku flags, (flags under the old regime) Military clothings and rebellious documents. After careful investigations, a private school and a Christian Church, which were used as head-quarters of those rebels, and twelve houses used as lodgings by insurgents were burnt down.

The remains of the killed rebels were collected at three places and cremated in accordance to the national custom. The Company had another mission at the time and left therefrom before the cremation was completed. Afterwards, on the re-

ceipt of information that the cremation was left unfinished, some soldiers were sent to the spot and the remains were properly disposed of.

Meanwhile, certain foreigners arrived at the place, it was learned, took photographs of the scene, including half-burnt bodies. These pictures were mailed to unknown destinations with statements of gross exaggeration. It was alleged, in some case, that half-dead bodies were thrown into fire! Needless to say that those reports are untrue.

(蓋屬輔)

據11月
11月11日大正10年11月11日

PRESBYTERIAN CHURCH IN CANADA

Board of Foreign Missions

439 Confederation

Life Chambers.

Mr. S. Shimizu,
Plaza Building,
Rideau & Sussex Sts.,
OTTAWA.

Dear Sir,

I have delayed my acknowledgment of your communication of March 14th containing copies of "Statement of Norapawie Incident", as forwarded to you by your Government. I thought possibly the other statement might be along shortly. I, however, wish to thank you now for the courtesy of your letter and the statement, and particularly do I wish to thank you for the reference in your letter to the Korean people as "our brethren", and also the expression of your desire that there shall be co-operation between your Government and our missionaries "with a view to the advancement of the spiritual, moral and physical conditions of the Korean people".

As I have stated in conversation, it is not the civilian administrators of the Chosen Government with whom we find it difficult to co-operate, but with the military and police who do not hesitate to exhibit their animosity towards Christians and Christianity, and make it difficult for Koreans to become Christians and for Korean Christians to

practice their faith and carry on their Church work, I hope, however, that the civil arm of the Government of Japan will become more and more dominant over the military arm, and thus make it easier or Premier Hara and his Cabinet to carry out their policy of the development of the Korean people, as I think all our missionaries agree is the fixed purpose of Governor-General Baron Saito.

It is quite natural, of course, that you should accept the statement concerning the Norapawie incident as "authentic". You cannot do otherwise since it comes from your Government. You will, I presume, allow us the same privilege of considering the statement of our missionaries as authentic, and, as you remark, there is much difference in substance.

From what the War Office stated concerning that and the other incidents some time ago, it is evident to me that this statement of the Norapawie incident issued from the War Office. Indeed, I presume that the Government has no other source of information than the War Office since the Com-

mission of Inquiry under Colonel Midzumachi was a military commission, each member being a military man, and it would not be likely that a military commission would issue statements censuring those in command of the Punitive Expedition.

I shall anticipate with interest the further statements that are to be made concerning the other three documents, though I fancy that they too will be based upon reports of Colonel Midzumachi's Commission.

I am even more eagerly awaiting the Government's action concerning Colonel Midzumachi's letter to Dr. Foote and our Mission, which has been so widely commented upon by the Far Eastern Press and also by the British Press in Great Britain.

It is not necessary, of course, that I should have a copy of that letter since, as you surmise, a copy was sent to me directly from our Mission. We still desire the comments upon it, however, that your Government may care to make, for Colonel Midzumachi on his arrival in Japan, according to Press reports, went even further than in his letter

educational and moral, of the Korean people, which will make for the best interests of both Koreans and Japanese.

I am, Yours faithfully,

(Signed) A. E. Armstrong.

P. S. I hope to be in Ottawa Monday, 4th proximo and, if so, will call on you.

(Signed) A. E. A.

(駐露輔士)
據立地

日本國外務省領事館
大韓民國公使館

March 30, 1921.

Rev. A. E. Armstrong,

Ass't. Secretary,

Board of Foreign Missions,
Presbyterian Church in Canada,

Toronto.

Dear Sir,

I beg to acknowledge the receipt of your two letters of the 26th instant.

As regards your desire for comments on Col. Midzumachi's letter, which my "Government may

in charging our missionaries with complicity in the Korean plot against Japanese rule in Korea.

We must have explicit statement, it seems to me, on the part of the Government of Japan that Colonel Midzumachi stated what was untrue in charging our missionaries with aiding the Koreans. I doubt very seriously if there is anyone of our missionaries who, even in his own mind, favours Korean independence, much less supports the Koreans in their agitation. All they have done is protest vigorously against the atrocities committed by the troops when they had ample evidence that these had been committed on men, women and children who had no part in whatever efforts had been made by Koreans bandits or outlaws against the Chosen Government.

Let me assure you that my Board looks forward with eager anticipation to the time when we trust we may carry on Christian work in Korea and in Manchuria without interference on the part of military and police, and to the end that there may be brought about steady development, spiritual,

care to make", as expressed in one of your letters referred to, I may say that it will not be forthcoming. This is the impression I gathered from a communication received from my Government. For, I presume, no comment could be stronger than the formal declaration of disavowal of the letter by my Government, of which I informed you in my letter of the 16th December last.

In regard to my visit to Toronto during the coming annual session of your Board, I think I may meet with your wishes. However, as you are coming to Ottawa next Monday, the 4th proximo, I shall be glad to talk it over when we meet.

Faithfully yours,
(Signed) S. Shimizu.

Consul General.

日本國外務省領事館
大韓民國公使館

正月
大韓民國公使館
日本國外務省領事館

大韓民國公使館
日本國外務省領事館

四月一日日本使外交總長ニ會見ノ際同總長ヨリ四月一日ヨリ間島方面ノ日本軍撤退ニ關スル新聞報道ノ實否ヲ問ヒタルニ付本使ヨリ撤退スヘキコトハ事實ナリト答ヘタル所同總長ハ撤兵アリ次第成ルヘク早ク琿春事件モ解決致シタク尚撤兵後ニ紛擾ヲ起ササル様致シタキニ付右撤兵ノ次第通知アリタキ旨申出タリ依テ本使ハ琿春事件急速解決ハ本使ノ最モ希望スル所ナリ撤兵通知ノコトハ訓令ニハ接シ居ラサルモ御希望トアラハ通知シ得サル限ニアラサル旨答ヘ置ケリ就テハ右通知ハ差支ナキコト認ムルニ付一応御含置ヲ請フ

在奉天總領事ヘ郵送セリ

四三五 四月二日 在間島埠總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

間島派遣隊ノ撤兵ハ四月下旬ヨリ五月上旬ニ

亘リ実施シタキ旨ノ大串朝鮮軍參謀長意見報

告ノ件

第一〇一號 (四月二日接受)

朝鮮軍參謀長ヨリ大要左ノ意見ヲ当地派遣隊司令官ニ電報シ來レリ

尚同司令官ハ朝鮮憲兵司令官ニ對シテモ間島殘留ノ憲兵ヲシテ軍隊ト共ニ撤去セシムル様訓達シタル由ナリ

右貴官ノ御含迄

奉天ヘ転電シ吉林、間島及各分館ヘ転電セシメラレタシ

四三七 四月八日 内田外務大臣宛（ヨリ）

間島方面ニ於ケル日本軍隊撤退ニ關スル外交

總長宛公文写送付ノ件

附屬書 四月八日付小幡公使ヨリ顏外交總長宛公文第五八号写

間島方面ニ於ケル殘留日本部隊ノ撤退ニ關スル件

機密第一一一号

(四月十四日接受)

大正十年四月八日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

間島方面軍隊撤退方ニ關スル件（關係電報）

一一 間島撤兵ニ關スル件 四三七 四三八

朝鮮ヨリ間島方面ニ増派サルヘキ警察官ハ四月中旬出發ノ予定ナルヲ以テ間島派遣隊ノ撤兵ハ概ネ四月下旬ヨリ五月上旬ニ亘リ實施セシメタキ軍司令官ノ意見ナリ又撤兵実行ハ領事館警察ノ充実ニ伴ヒ之ト交代的ニ逐次撤兵ノ計画ノ下ニ其実施方ニ關シ領事ト協議ノ上結果報告セラレタシ

公使、奉天、吉林、琿春ヘ電報セリ

四三六 四月六日 内田外務大臣（ヨリ）
在中国小幡公使宛（電報）

間島撤兵ニ關シ植田朝鮮軍司令官ヨリ高島第

十九師團長ニ訓令シタル内容通報ノ件

第一九二號

往電第一六七號ニ關シ

間島撤兵ニ關シ朝鮮司令官ハ第十九師團長ニ對シ本月五日左ノ通り訓令シタル旨同司令官ヨリ陸軍大臣ヘ電報アリタル趣ナリ

一、第十九師團長ハ間島派遣隊及現ニ間島ニ在ル無線電信班、鳩通信ヲシテ其配置ヲ撤シ朝鮮内ニ帰還セシムヘシ二、右部隊ノ撤退ハ逐次ニ之ヲ行ヒ五月上旬迄ニ帰還スル如ク第十九師團長ニ於テ実施スヘシ

本件ニ關シ左記書類及送付候也

四月八日附外交總長宛公文写

第五八號

（附屬書）

以書翰致啓上候陳者曩ニ琿春事件ニ關聯シ間島地方ニ派遣セル帝國軍隊撤退ノ件ニ關シ一月六日附書翰ヲ以テ申進置タル次第有之候処今般帝國政府ハ右書翰後段所載帝國領事館及同分館所在地ニ於ケル撤退未了ノ帝國軍隊ヲ責め軍隊ノ增加配置並該地方治安維持ノ実況ニ応シ一律順次ニ撤退方所属當該軍司令官ニ訓令済ノ旨帝國政府ヨリ來電ノ次第有之候ニ付右茲ニ及通報候條御了知相成度此段照会得貴意候

敬具

日本帝國特命全權公使 小幡 西吉

支那共和國署理外交總長 顏 惠慶殿
在間島埠總領事代代理ヨリ
内田外務大臣宛

間島方面派遣隊撤退ニ關スル朝鮮軍司令官告

一一 間島撤兵ニ関スル件 四三八

五八四

示写送付ノ件

附屬書

四月八日付原田間島派遣隊參謀ヨリ堺間島總領

事代理宛間島第一二九号信

間島派遣隊撤退ニ関スル朝鮮軍司令官告示通牒
ノ件

機密第一六八号

大正十年四月九日

(四月十八日接受)

在間島

總領事代理領事 堀 与三吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大正十年四月八日間島派遣隊原田參謀發間島第一二九号写
送付

件名 撤退ニ関スル軍司令官告示ノ件

本信送付先 外務次官、在支公使、吉林、奉天各總領事
局子街、琿春、頭道溝各分館、百草溝出張所
(附屬書)

間島第一二九号

撤退ニ関スル軍司令官告示ノ件通牒

(別紙) 告示

大日本帝国朝鮮軍司令官大庭告示ス

昨年十月帝國軍隊、琿春及間島地方ニ出動シ支那軍隊ト協同匪徒ヲ剿討シ而シテ其目的ヲ達スルヤ、直チニ大部ヲ撤退セリ

然共當時尚不安ノ状ヲ認メタルヲ以テ帝國官民保護ノ為メ一部隊ヲ残置シ以テ今日ニ及ヘリ爾來該地方一帯ノ秩序ハ漸次回復セラレ殊ニ支那官憲ハ誠意其軍警ヲ増派シ不逞輩ノ取締ヲ確実ニセントスルニ至レルヲ以テ此ノ機會ニ於テ帝國政府ノ声明ニ基キ我殘置部隊全部ヲ撤退セントス

昨年我軍匪徒剿討ニ從事スルヤ支那官民及我在留民ノ我軍事行動ニ多大ノ便宜ヲ与ヘタル行為ニ對シ深ク感謝ノ意ヲ表ス

軍ノ撤退後我在留民ハ支那官憲ノ嚴密ナル取締ト支那官民ノ厚意並ニ帝國領事ノ保護トニ依リ各々其堵ニ安ンシ業ヲ勵ミ其福利ヲ増進センコトヲ望ム

大正十年四月七日

四三九 四月十一日 在間島埠總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

間島殘留部隊ノ撤退順序二関シ報告ノ件

第一〇八号

(四月十二日接受)

我殘留部隊ノ撤退開始ハ本月十五日ニ部隊中ヨリ各一個中隊ヲ出発セシメ二十五日頃ニ百草溝ノ部隊全部ヲ局子街迄引揚ゲ月末ヨリ五月上旬ニ亘リ各地共全部撤退スル筈ニテ我警察官增派ノ程度如何ニ依リテ多少斟酌スヘク差向キ百草溝ヘ警察官ノ増派ヲ俟チ居レリ

公使、奉天、吉林、朝鮮總督へ電報セリ

四四〇 四月十五日 在中國外務大臣ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

間島撤兵ノ實行予定ニ關シ通報ノ件

第二〇三号

(四月三十日接受)

附屬書 右ニ關スル四月二十三日付堺總領事代理ヨリ各分館及出張所宛通知写

大正十年四月二十三日

(四月三十日接受)

一一 間島撤兵ニ關スル件 四三九 四四〇 四四一

五八五

在間島

總領事代理領事 堀 与三吉（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

陸軍連絡將校派駐ニ閑シ各分館へ通知写報告

ノ件

本件ニ閑シ別紙写ノ通り各分館及出張所ニ通達致置候間右
写添付及報告候 敬具

本信写送付先

在支公使 奉天 吉林各總領事
(附屬書)

大正十年四月二十三日

在間島

總領事代理領事 堀 与三吉

各分館及出張所宛

陸軍連絡將校派駐ニ閑スル件

今回撤兵ニ伴ヒ朝鮮軍司令官ト張巡閱使トノ間ニ協定ノ結
果支那陸軍トノ連絡將校ヲ各地ニ駐在セシムル事ニ決シ別

中尉 宮川 浩之

四四二 四月二十六日 在間島界總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

間島、琿春派遺軍ハ五月八日迄ニ全部撤退ス

ル予定ナル件

(四月二十七日接受)

第一二二八号
間島琿春派遺軍ハ警察官配置ノ実行遲延ノ結果多少日延ヲ
為シ五月八日迄ニ全部出發撤退スルコトトナリ且今回ノ予
定期日ハ如何ナル事情アルトモ変更セサルヘキ旨派遺隊司令官ヨリ通知アリタリ

公使、奉天、吉林へ電報セリ
間島撤兵ニ付ヒ慶源と琿春間連絡兵ノ往復復

四四三 四月二十八日 在琿春秋洲分館主任ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
旧方第十九師團長ニ電報ノ件

第二五号
(四月二十八日接受)

小宮山大尉ト協議ノ上左ノ通第十九師團長ニ電報セリ御了
承ヲ乞フ、間島へ転電セリ
最近愈々間島撤兵ニ付テ当地方民心ヲ安ソズル為事變前ニ

紙人名表ノ通り配置セラル趣ニ付キ駐在中ハ隔意ナキ連
絡協調ヲ保チ差支ナキ限り充分便宜供与方御配慮相成候様
致度此段申進候也

(別紙)

陸軍連絡將校人名表

琿春駐在 大尉 小見山泰造

中尉 織田 昌一

局子街駐在 班長大佐 原田 貞吉

大尉 坂野広太郎

中尉 本池 政敏

竜井村駐在 大尉 大和田義雄

頭道溝駐在 百草溝駐在

大尉 平間市太郎

中尉 羽山吉太郎
(善郎?)

天寶山駐在

於ケル慶源琿春間連絡兵ノ往復ヲ復旧アリタク差當リ五月
中ハ毎週二回其後ハ一回宛差遣方特ニ御詮議ヲ願ヒタシ

四四四 五月七日 在間島界總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

軍事連絡員派駐ニ付奉天以外ノ配置ハ張巡閱

使承認セザル旨陶道尹申出ニ付請訓ノ件

第一四六号
(五月七日接受)

陶道尹当地ニ來リ本官ヲ來訪シ用談ノ第一トシテ今回撤兵
後軍事聯絡員ヲ六ヶ所ニ配置セラル趣ニ閑シ鎮守使ヨリ
張巡閱使ヘ伺出タル處本月五日到著ノ返電ニ依レハ曩ニ大
庭司令官來奉ノ際軍事聯絡員設置ニ閑シ提議アリタルヲ以
テ聯絡員一名ヲ奉天ニ置クコトヲ承認シ既ニ到着シ居リ局
子街等ニ配置ヲ承認セセルコトナシ右ハ口実ヲ藉リタル措置
ニシテ断シテ承認シ難シ道尹ト協議ノ上嚴重交渉シテ之ヲ
撤退セシムヘシトノ趣旨ナリ右聯絡員引揚方ニ閑シ御配慮
ヲ請フ旨申出タリ聯絡員十名ヲ間島地方ニ残スコトヲ張巡
閱使カ承諾セルコトハ奉天總領事発閣下宛往電第五六号ニ
テ承知シ居ル処如何ナル行違ナルヤ一応御取調ノ上何分ノ
儀御電訓ヲ請フ

一一 間島撤兵ニ関スル件 四四五 四五六

五八八

当地派遣隊司令官へハ此ノ旨通シ置ケリ
公使、奉天、吉林へ電報セリ

四四五 五月八日 在間島界総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)
外務大臣伯爵 内田 康哉殿

獐春事件支那側ノ損害ニ関スル件

間島、獐春殘留部隊全部撤退完了ノ旨報告ノ件

第四九号 (五月八日接受)
間島、獐春殘留部隊ハ予定ノ日程ニ従ヒ各地共夫々引上ヲ終リ本日当地派遣隊司令部ノ出発ヲ最終トシテ全部撤退ヲ了セリ但シ跡始末ノ為メ少數ノ憲兵ト主計トヲ残セルカ残務整理済次第之モ數日内ニ出発帰還スル筈ナリ
北京、奉天、吉林へ電報セリ

四四六 五月十六日 在中國吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

獐春事件ニ關スル中國側ノ損害賠償要求ニ關

シ報告ノ件

公第一九一号 (五月二十一日接受)

大正十年五月十六日

在支那

当地新聞紙ノ報道ニ拵レハ孫烈臣ハ先般中央政府ニ宛テ「本件支那側ノ損害ニ関シテハ早クヨリ調査中ナリシ処茲ニ延吉道尹ヨリノ報告ニ拵レバ獐、和、延、汪、東五県ニ於ケル財産上ノ損害ハ合計八百三十二万一千九百二十元死者合計一百六十六名ナル由申越シタルカ如何交渉スベキヤ速ニ何分ノ御指示ヲ請フ」云々タ電報シ来レルニ対シ中央政府ハ「同地警察撤退問題等ニ関シテハ已ニ文書ヲ以テ日本公使ニ嚴重交渉中ナルモ同公使ハ近ク帰朝スル為メ未タ回答ニ接セス損害賠償ニ關シテハ同使ノ帰任ヲ俟ツテ直ニ交渉ヲ開始スペク決シテ延引セシムルカ如キコトナケレハ其旨商民ニ告知シ安心セシムル様取計ハレタシ」云々ト返電シタリトノ事ニ有之候
右御参考迄及報告候也

四四七 五月二十一日 在間島界総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

間島地方ニ於ケル宣教師ノ言動ニ關シ英國副領事ノ談話内容報告ノ件

第一七四号(至急) (五月二十二日接受)

貴電第九三号ニ關シ

英國副領事「カニンガム」十九日來着二十日本官ヲ來訪シタルニ付先ツ當館ト宣教師間ニ別段確執アルニアラズ自分ハ勿論宣教師側ニモ何等惡感情アルヘキ筈ナク從來友好關係ニアルコトヲ語リタル後徐々ニ宣教師ノ從来ニ於ケル行動ニ言及シ不逞鮮人等トノ關係ニ付遺憾ノ点多カリシ多数ノ事実ヲ挙ケ幸ニ今日ニテハ右様ノ事ナキヲ喜フ旨語リタル處副領事ハ右事実ニ關シテハ宣教師等ニ就キテモ篤ト問糺スヘシト述ヘタルニ付然ラハ明日更ニ会談スヘシト約シ

喜ハシキ所ナル旨ヲ語リ一言ノ反駁的回答モナカリシ点ヨ

リ察スレハ宣教師等ニ於テモ全ク弁解ノ辞ナカリシモノノ如ク副領事ハ本官ノ挙ケタル多數ノ事実ヲ全然承認シタル

本日彼ヲ答訪シタル處昨日ノ事ハ十分宣教師等ニ話シ置キタルカ兎ニ角目下何等問題モナク親交ノ間柄ニアルハ甚タ

喜ハシキ所ナル旨ヲ語リ一言ノ反駁的回答モナカリシ点ヨ

リ察スレハ宣教師等ニ於テモ全ク弁解ノ辞ナカリシモノノ如ク副領事ハ本官ノ挙ケタル多數ノ事実ヲ全然承認シタル

本日彼ヲ答訪シタル處昨日ノ事ハ十分宣教師等ニ話シ置キタルカ兎ニ角目下何等問題モナク親交ノ間柄ニアルハ甚タ

喜ハシキ所ナル旨ヲ語リ一言ノ反駁的回答モナカリシ点ヨ

リ察スレハ宣教師等ニ於テモ全ク弁解ノ辞ナカリシモノノ如ク副領事ハ本官ノ挙ケタル多數ノ事実ヲ全然承認シタル

陸軍省送達西密第一〇七号

(七月五日接受)

附屬書 六月二十八日朝鮮軍參謀長發陸軍省軍務局長宛

電報朝參三七三号写

右 同 件

四四八 七月四日 山梨陸軍大臣ヨリ

内田外務大臣宛

間島方面連絡將校問題ニ付「連絡將校」ナル

名義ヲ用ヒズ存置シ差支ナキ旨ノ張巡閱使側

意向ノ件

回答

大正十年七月四日

陸軍大臣 山梨 半造（印）
外務大臣伯爵 内田 康哉殿

六月十三日亞三機密送第七六号ヲ以テ御照会ノ首題ノ件ニ
閔シテハ朝鮮軍參謀長ヨリ別紙朝參三七三等ノ通報告有之
候ニ付爾今連絡將校ナル名稱ヲ避ケ当分該機関ヲ存置致度
候条御承知相成度候也

（附屬書）

六月二十八日朝鮮軍參謀長發陸軍省軍務局長宛電報朝參三七三

号写

朝參三七三

間島連絡將校ニ閔シ六月十七日朝參三五八ヲ以テ電報セシ
カ其ノ後貴志少将ト張作霖ト交渉ノ結果左ノ如シ

間島方面連絡將校ノ件ニ閔シ直接張作霖ニ交渉シタルニ彼
ハ自分ニ於テハ差支ナシト考ルモ一応孫督軍ノ意嚮ヲ確メ
ラレ度ト答エタルヲ以テ翌日孫督軍ニ會見交渉セシニ孫ハ
公然之ヲ許スコト能ハサルモ連絡將校ナル名義ヲ用ヒスシ
テ置カルルコトハ差支ナク道尹ヨリノ抗議ニ対シテハ其ノ

儘ニナシ置カレテ差支ナキモ總人員ヲ七名位ニ減スルコト
ヲ得サルヤト申出タリ依テ軍ハ支那官憲ニ對スル公文上ニ
「連絡將校」ナル名稱ヲ避クルコトトスルモ人員ハ當分現
状ヲ維持シ時機ヲ見テ減少スル意見ナリ

四四九 七月五日 在間島埠總領事代理ヨリ

陸軍連絡班設置ヲ中國側默認ニ付報告ノ件

機密第二八〇号

大正十年七月五日 在間島

（七月十六日接受）

總領事代理領事 塙 与三吉（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

陸軍連絡班設置方支那側默認ノ件

我陸軍連絡班ノ設置ニ閔シ支那側抗議ノ次第ハ本年五月七
日付往電第一四六号並ニ四月二十四日付拙信機密第二二〇
号ヲ以テ報告旁御措置ヲ仰キ置候處其後未タ御回訓ニ接セ
サルモ右聯絡班ハ其儘當方面ニ駐留夫々任務ニ服シ居候處
今回支那側當局ニ於テハ事實默認スル事ニ決定シタル趣在

局子街原田聯絡班長ヨリ別紙軍參謀長電報写相添申越候間

此段一応及報告候 敬具
本信写送付先 在支公使、奉天總領事、吉林總領事
(別 紙)

朝鮮軍參謀長發在局子街原田聯絡班長宛電報

在奉天貴志少将ヨリ次ノ通り電報アリ因テ聯絡員ナル名稱
ハ支那官憲ニ対スル公文上ニハ之ヲ避クル様セラレ度シ
間島方面連絡將校ノ件ニ閔シ直接張作霖ニ交渉シタルニ
彼ハ自分ニ於テハ差支ナシト考フルモ一応孫督軍ノ意向
ヲ確メラレ度シト答ヘタルニ因リ孫督軍ニ會見交渉セシ
ニ孫督軍ハ公然之ヲ許スコト能ハサルモ連絡將校ナル名
義ヲ用ヒスシテ置カルルコトハ差支ナク道尹ノ抗議ニ対
シテハ其儘ニナシ置カレテ差支ナキモ總人員ヲ七名位ニ
減スルコトヲ得サルヤト申出タリ

四五〇 七月七日 在間島埠總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

間島方面非常警戒設備ニ閔シ稟請ノ件

(七月十八日接受)

機密第二八四号

大正十年七月七日

合計金額千四百円也

一一 間島撤兵ニ閔スル件 四五〇

四五一 七月八日

在間島埠總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

間島連絡將校設置默認ニ閔シ統報ノ件

附属書

七月五日付在局子街原田間島連絡班長ヨリ埠間

島總領事代理宛間甲第五二号信

間島連絡班殘留ニ閔シ貴志少將張巡閱使間交渉
内容ノ件

機密第一八六号

大正十年七月八日

在間島

總領事代理領事 墙 与三吉（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

（七月二十一日接受）

間島聯絡將校設置默認ニ閔シ統報ノ件

本件ニ閔シ本件五月五日付機密往信第二八〇号ヲ以テ及報告置候處本件張巡閱使及孫督軍トノ交渉内容ニ閔シ更ニ在局子街原田聯絡班長ヨリ別紙写ノ通り通牒有之候間何等御参考迄ニ此段及追報候 敬具

本信写送付先 在支公使 奉天總領事 吉林總領事

七月五日附在局子街原田間島連絡班長ヨリ埠總領事代理宛間甲

第五二号

間甲第五二号

間島連絡將校設置交渉内容ニ閔スル件通牒

大正十年七月五日

間島連絡班長 原田 貞吉

埠總領事代理殿

首題ノ件ニ閔シ奉天派遺員松尾大尉ヨリ別紙ノ通り通報有之候条及通牒候也

（別 紙）

巡閱使トノ交渉内容ニ閔スル件

朝參三五九我間島連絡班配置ニ閔シ陶道尹ヨリ埠總領事宛公文ヲ以テ撤去方要求シ來レリトノ事ナリシヲ以テ小官ハ六月十八日張巡閱使ニ會見シ陶道尹抗議ノ内容ヲ語リ間島ノ現況ニ対シ我連絡班殘留ノ必要ト該方面彼我軍部間何等事故ナキノミナラス目下相互頗ル円満ニシテ支那軍隊モ亦我

二、所見

要スルニ間島ニ將校ヲ殘置スルノ件ハ差支ナシ支那側ヨリ抗議シ來ルモ体面上ナレハ回答スルノ必要ヲ認メ斯然シ先方ヲシテ誤解ナカラシメン為メ連絡員又ハ班ナル名称ヲ廢シ且当分公式的ニ亘ル行動ヲ慎ミ名ヲ捨テ実ヲ採ルノ手段ニ出スルノ必要ヲ認ム

ハ巡閱使ヨリ未タ此事ハ耳ニセストテ種々ノ理屈ヲ陳ヘ連

絡員ハ日支軍隊同地方ニ存在シ始メテ其意味ヲ為シ又必要

アルモ日本軍ノ撤退セル今日ニ在リテハ連絡ノ要ナシ又不

逞鮮人等ニ閔スル諸情報ハ在間島日本警察官ノ報告ニテ充

分ナラスヤト我連絡員ノ名称ヲ日支軍事協約ニ基キシ連絡

員ト同様ニ解シ輿論ヲ恐レテ容易ニ承認ノ意ナカリシモ種々説明ノ結果孫ハ連絡班又ハ員ナル名称ヲ廢シ私人的將校ノ駐在ナレハ公然承認セサルモ其儘ニ置キ差支ナキモ猶一応巡閱使ノ所見ヲ徵シ回答スヘシト答ヘリ

六月二十五日孫督軍ハ國務院參議于沖漢ヲ通シ小官宛在間

島日本將校殘留ノ件ニ閔シ支那側ノ抗議ハ抗議トシテ其儘ニ置キ非公式ニ駐在ハ差支ナシト認ムルモ九名ハ多キニ過

ク七名位ニ減セラレ度トノ回答アリ

回答置相成度此段及回訓候也

追而本信写為參考各分館へ御送附相成度候

本信写送附先 在支公使 奉天及吉林總領事

註別編七月四日附陸軍大臣來信省略

四五三 七月二十六日 内田外務大臣ヨリ 在間島埠總領事代理宛

間島方面非常警戒設備見合方回訓ノ件

非常警戒設備ニ関スル件

關以本甲七田寸幾密第一

承右設備ニ要スル経費ハ予算ノ關係上支出困難ナルノミナ
ラス御承知ノ通り右各分署ニ対シテハ支那側ニ於テ今尚執
拗ニ之力撤退ヲ要求シ居ル次第ニ有之今日遽力ニ御来示ノ
如キ土壘散兵壕等ノ防禦設備ヲ施ストキハ益々支那側ノ反
感ヲ挑発シ一層問題ヲ紛糾セシムルノ虞アリト被存候ニ付
旁々右防禦設備実施ハ當分之ヲ見合ハスコトト致度候条左

四五四 八月二十三日 在中国小幡公使（ヨリ）内田外務大臣宛（電報）
瑠春事件善後交渉開始ニ付外交總長トノ会談
内容報告並警察官撤退ニ関シ請訓ノ件

卷之三

シ細目ハ奉天ニ於テ商議スルコトニ致シタキ旨懇談セリ依テ本使ハ第一点ニ付我方要求案ハ本件ノ重大問題ナルニ鑑ミ日本側トシテハ公平妥当何等苛重ノ条件ニアラサル次第ナルカ本国政府ニテ果シテ修正ヲ承諾スヘキヤ疑ハシク又自分トシテモ該条件ノ詳細ハ既ニ久シク日ヲ経十分記憶セサルカ故ニ何等確答シ難ク第二点ニ付テハ本使ニ於テモ異議ナク本件解決案ノ大綱各項例へハ燒失シタル領事館ニ対スル賠償ヲ中央ニ於テ承諾セハ之カ細目ハ奉天ニテ商議シ又場合ニ依リテハ賠償額等詳細ニ亘ルコトハ間島ノ実地ニ於テ日支双方委員ノ立会ヲ要スルコトアルヘキモ大体貴説ノ通取計ヒ差支ナシト認ム

尙ホ本件解決ニ付一応述ヘ置度ハ貴国側ヨリ曩ニ日本軍隊カ間島方面ニ於テ無料ニテ物資ヲ徵収シ又ハ良民ノ殺傷家屋ノ焼棄ニ対スル申出アリタルニ付當時本国政府ニ報告シ陸軍省ニ於テ詳細ノ取調ヲ行ヒタル結果右ハ全然事實ニ非ナル物資ヲ購入シ夫々受領証ヲ有シ又人民家屋ノ殺傷(脱ヌ?)等ハ何レモ不逞鮮人或ハ其ノ家屋ニ外ナラス是等詳細

ノ点ハ必要トアラハ當館カ送付ヲ受ケタル調査書ニ基キ説明スヘキモ主トシテ朝鮮人關係ナル旨ヲ述ヘタルニ同総長ハ支那側調査ハ未タ全部揃ヘ居ラサルモ朝鮮人ト雖間島條約ニ依リ墾民ハ支那政府ニ於テ保護ノ責任ヲ有スルカ故ニ外交部員ノ確実ナル調査ニ基ク損害賠償ヲ求ムル筈ナル旨弁明セルニ付本使ハ独リ間島ニ於ケル朝鮮墾民ノミナラス貴國領土内ニ於ケル各国人ニ対シ貴国政府ハ條約上保護ノ責任ヲ有スル次第ニ付墾民ニ対スル保護ナリトテ之カ賠償ヲ申出ラル筋合トハナラサルヘシ要スルニ是レハ若シ何等被害者アリトセハ其ノ被害人ノ国籍ニ依リテ判定スヘキ問題ナリ然ルニ間島ニ於ケル墾民ノ国籍ニ付テハ五六年前貴部ト当館トノ間ニ種々交渉アリタルモ懸案トシテ今尚ホ決定シ居ラサル次第ナリト反駁説明ヲ加ヘタリ右本使ノ反駁ニ対シテハ同総長ハ間島條約ノ詳細ニ付テハ自分モ未タ十分ニ研究シ居ラサルカ墾民ノ損害ニシテ加害者ガ支那軍隊又ハ支那ナル場合ハ支那側ニテ損害ヲ仕払フ責任アルモ本件ノ場合ハ日本軍隊ナルカ為支那側ヨリ日本政府ニ対シ損害ヲ要求スルコト至当ノ手続ナラント思考スト云ヘリ依

八月十九日本使外交総長ニ会見璋春事件交渉再開ノ端緒ヲ
開キ置カンカ為該問題ハ帝国領事館焼棄人名殺傷ニ係ル頗
ル重大事件ニ拘ハラス今日迄久シク解決ニ至ラサルハ本国
政府ニ於テモ國民ニ対スル辭ナク將又之カ直接責任者タル
本使トシテモ此上遷延シ難キ理由ヲ敷衍シ速ニ解決方督促
シタル処同總長ハ支那側トシテモ本件ノ如キハ可成速ニ解
決致度キ考ヘナルモ奈何セン日本撤兵後増派セラレタル警
察官ノ撤退ナク現ニ支那側警察隊ノ配置ニ付テモ北京ヨリ
ノ特派隊モ既ニ到著シ秩序ノ維持ハ支那軍警ニ於テ十分ナ
リト認メ貴公使帰朝中數回ニ亘り日本警察官ノ撤退ヲ要求
セルモ今以テ要領ヲ得タル回答ナキ為今日ニ及ヘル次第ナ
ルカ此際右撤退ノ談合ヲ煩ハシタク次ニ本件交渉ニ入ルニ
際シ(一)日本政府ヨリ曩ニ提出アリタル本件解決条件ハ甚タ
強硬ナルモノニ付今少シク穩カナル条件ニ修正出来サルヤ
勿論貴國側ニテ修正出來ストノコトナレハ該条件ニ相応ス
ル支那側対案ヲ提出スヘキ筈ナルモ斯クテハ互ニ議論多ク
ナリ外間ニ種々ノ誤解ヲ生スルコトトナリ結局解決困難ニ
陥ルノ虞アルニ付可成穩当ナル条件ニ修正ヲ加ヘラルレハ
支那側ニ於テモ夫レニ応スル対案ヲ回答スヘキニ付解決容

一一 間島撤兵ニ関スル件 四五五

五六六

ソモ此ノ場合ハ聊カ異ナレリト述ヘ置ケリ之ヲ要スルニ輝春問題ハ日本政府ニ於テ増派警察官ノ一時撤退スルカ然ラサレハ領事館又ハ從来ノ駐在地ニ引揚クルニアラサレハ交渉ヲ進メ難シ右ニ対スル何分ノ詮議ノ結果回訓ヲ請フ奉天吉林間島へ郵送セリ

四五五 九月二日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

間島地区治安不良ナルニ付警察官ノ撤退不能

ナル旨回答方訓令ノ件

第四三二号

貴電第五七八号ニ閲シ

支那側カ間島地方ニ於ケル我警察官ノ増派ヲ口実トシテ輝春事件ノ交渉ニ入ルヲ肯セサルノ甚タ理由ナキ次第ハ本年一月往電第三八号説述ノ通リニテ今更ラ茲ニ繰返スノ要ナキ次第ナルカ曾テハ我軍隊ノ駐屯ヲ理由トシ輝春事件ノ交渉ヲ拒絶シ一度撤兵スレハ今度ハ警察官ヲ引揚クルニ非ラサレハ交渉ニ応セスト主張ス今若シ之ニ聽從セムカ其頃ニハ必スヤ我出兵ニ因ル支那人乃至墾民ノ被害ナリトシテ我方ニ対シ逆ニ賠償ヲ要求シ來リアハヨクバ我方要求ト帳

事項一二 中国内政関係雑件

四五六 一月二十五日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使（電報）

中国政局ノ乱脈ニ關シ幣制局總裁張弧ノ西田

二対スル内話報告ノ件

第七七号

（一月二十六日接受）

最近張弧ハ西田ニ対シ大要左ノ通り内話セル趣ナリ

昨今政局ノ乱脈益々甚シク南北統一ノ困難ハ勿論南北共ニ劇甚ナル政派ノ争アリ旧暦年末ハ差シタル事ナク打過スヘカラソ二三月ヨリ國會議員選舉前後ニ涉リ頓ニ紛擾ヲ惹起スヘキ氣運ニ向ヒツツアリ中央ニ於テハ潘復等ヲ中心トルスル斬雲鵬派（最近政学会派ハ斬派ト行動ヲ共ニセリ）旧交通系及研究系ノ三派間ニ於ケル暗闘甚シク就中旧交通系ハ選挙ノ準備其他政治上ノ活躍ニ資スル為北京各漢字新聞中二三ヲ除ク外悉ク之ヲ買収スル等著々計画ヲ進メツツアリ其間尚奉天直隸兩派ノ暗闘アリ更ニ地方ニアリテハ湖南趙恒惕ト反対派トノ争漸ク激烈トナラントシ四川ノ如キ劉存厚ト熊克武トノ間ニ内訌アリ現ニ劉存厚代表ト北京中央

右重慶ニ転電シ成都ニ郵送セシメ漢口、天津、長沙、上海、廣東ニ郵送ス

四五七 二月四日

内田外務大臣宛
在天津船津總領事ヨリ

在ハルビン東支鐵道護路軍司令張煥相ノ張作霖ニ提出セル滿洲政策ニ關スル意見書ニ付報

消セムトスル底意ナルヤモ計リ難ク旁々貴官ハ更ニ前記往電第三八号ノ趣旨ヲ布衍シテ先方ノ主張ヲ駁セラレ往電第一四五号訓令ノ通り交渉促進方此上共御努力相成度ク尚我增派警察官問題ニ閲シテモ往電第二二二号並ニ本年七月一日付亞三機密送第一一〇号往信ノ趣旨ヲ繰返シテ説明ヲ与ヘラルト同時ニ同地方ノ治安ニシテ完全ニ維持セラレ何等不安ナシト認メラルニ至ラハ直ニ撤退スヘキコト勿論ナルモ間島及輝春地方一帯不穏ノ状況ハ今猶依然タルモノアルハ甚タ遺憾ナル旨ヲ述ヘラレ且ツ近時各方面ノ情報ヲ綜合スルニ不逞鮮人ノ一派ハ露西亞過激派乃至「バルチザン」ト結托シ間島地方ヲ足溜リトシテ其魔手ヲ支那及朝鮮内地ニ伸ハサムト謀リ之力第一着手トシテ先ツ間島地方ノ鮮人赤化ニ腐心シツツアリト認ムヘキ節アリ之レ最モ注意ヲ要スル新現象ニシテ此後ノ情勢如何ニ依リテハ已ムヲ得ス更ニ警察官増派ノ必要ニ迫マラルコトアルヤモ難計キ次第ニ付場合ニ依リ此点モ附言セラレ差支ナシ奉天ヘ転電シ吉林、間島ヘ転電セシメラレタシ